令和5年度

科目名	哲学的人間学特論Ⅰ	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
担当教員	野口　周一		
開講期	前期		
授業概要	本講義のテーマは「民衆の教育経験」である。それは人々が教育をどのように受けたのか、また教育を受けたことがその後の人生にどのような影響を与えたのか、ということを考えるために用いた言葉と考える（大門正克氏）。本講義の前半は壷井栄の名著『二十四の瞳」を読み、小豆島の寒村を舞台にした小学校1年生の生活から、その当時の問題点を浮き彫りにし、後半は大門氏の著作を手掛かりに考えていく。なお、自分で考え、発表することを重視する。		
達成目標	1、戦争と学校体験の視点から「民衆の教育思想」について、具体例をあげて説明できること。 2、日本史における近代史の部分をある程度説明できるようになること。		
受講資格		**成績評価** **方法**	『二十四の瞳』『民衆の教育経験』の講読をとおして、子どものおかれた環境がどのようなものであったか、それを理化することに80％の評価をしたい。また感想を述べていただくところを20％の評価とする。
教科書	大門正克『民衆の教育経験』		
参考書	その都度、明示したい。		
学生への要望	講義への主体的な参加を望む。		
オフィスタイム			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス及び『二十四の瞳』を読む（1）	授業の進め方について説明する。講読では教育勅語とは何かを考える。	予習・復習	90
2	『二十四の瞳』を読む（2）	御真影とは何か、について考える。	予習・復習	90
3	同上　（3）	国定教科書とは何か、について考える。	予習・復習	90
4	同上　（4）	忠君愛国とは何か、について考える。	予習・復習	90
5	同上　（5）	子どもの悲しみとは何か、児童労働について考える	予習・復習	90
6	同上　（6）	女に生まれたこと、について考える。	予習・復習	90
7	同上　（7）	大石先生の悲しみとは何か、わが子を失うことについて考える。	予習・復習	90
8	同上　（8）	大石先生の悲しみとは何か、教え子を失うことについて考える。	予習・復習	90
9	『民衆の教育経験』を考える（1）	就学と進路をめぐる動向について。	90	90
10	同上　（2）	国家と学校の望む子ども像について。	予習・復習	90
11	同上　（3）	村のこども像の輪郭について。	予習・復習	90
12	同上　（4）	都市の子ども像の輪郭について。	予習・復習	90
13	同上　（5）	教育の社会的機能と社会移動について。	予習・復習	90
14	同上　（6）	戦時下の小国民について。	予習・復習	90
15	同上　（7）	学童疎開について。	予習・復習	90

令和5年度

科目名	教育学的人間学特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	野口　周一		
開講期	後期		
授業概要	本講義では木村素衛（きむら・もともり、1895―1946）という教育哲学者に学ぶ。木村は師の西田幾多郎に嘱望され、それを決して裏切ることのない珠玉の著作を残した。木村はカント、フィヒテを中心とするドイツ観念論の哲学研究から出発し、彼自身の造語となる「表現愛」の理論を展開した。木村の理論は難解であるが、娘の張さつき氏による『父・木村素衛からの贈りもの』（未来社、2002年）というエッセイがある。これを手がかりに木村の哲学を読み解いていきたい。		
達成目標	1　木村素衛の思索と行動を通じて、教育学的人間論とは何か、自問自答できること。 2　木村素衛の信州の教師たちにかけた愛情と「表現愛」を系統的に理解できること。		
受講資格		成績評価 方法	張さつき氏の『父・木村素衛の贈りもの』の講読を通して、その思索と行動を理解することを目指すことに80％の評価をしたい。また感想を述べていただくところを20％の評価とする。
教科書	特に使用しない。		
参考書	その都度、明示はしていきたい。		
学生への要望	講義への主体的、協力的な参加を望む。		
オフィスタイム			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入および張氏の「黄色いバラの花」を読む。	授業の進め方について説明する。また木村と信州との関わり方について考えていく。	予習・復習	90
2	「サナギ」を読む。	サナギの意味を考える。	予習・復習	90
3	「記念碑」を読む。	なぜ四つの碑があるのか考える。	予習・復習	90
4	「ふるさと橋立」を読む。	木村のふるさとである橋立について考える。	予習・復習	90
5	「京都での生活」を読む。	木村と京都との出会いについて考える。	予習・復習	90
6	「青春」を読む。	木村の愛と闘病について考える。	予習・復習	90
7	「京都帝国大学入学」を読む。	西田との出会い、学問への情熱について考える。	予習・復習	90
8	「結婚」を読む。	木村の結婚について考える。	予習・復習	90
9	「広島時代」を読む。	「一打の鑿」について考える。	予習・復習	90
10	「信州と父・その出合いの頃」を読む。	信濃教育会との関わり、教育学への道について考える。	予習・復習	90
11	「京大教育学へ」を読む。	「教育哲学」構築へ、「本当の教育とは」について考える。	予習・復習	90
12	「戦いの中で」を読む。	「初等教育を大切に」、「教え子の出征」、「教育者を育てる」について考える。	予習・復習	90
13	「終戦後の日々」を読む。	「信州での講演」、「戦後の教育について考える」について考える。	予習・復習	90
14	「終焉」を読む。	「風邪をおして信州へ」について考える。	予習・復習	90
15	総括	木村の「国家における文化と教育」についても考えたい。	予習・復習	90

令和5年度

科目名	健康生活特論Ⅰ	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	紺野　信弘		
開講期	前期		
授業概要	人間の健康について、英文専門書の翻訳を通して学習する。翻訳の過程で疫学的な考え方についての講義も行う。集団の健康を扱うのに必要な統計の手法についても学ぶ。[課題に対するフィードバックの方法]　講読した英文を和訳し提出させる。それによって英文の意味が定着する。		
達成目標	人間の健康、特に人間集団の健康を知る上での疫学的考え方の重要性を学ぶ。【単位認定方法と最低基準】出席を重視します。提出を求められた英文の翻訳レポートは必ず提出すること。【デプロマポリシーと授業科目の関連】①知識の獲得とその理解、②総合的な学習経験と創造的思考の獲得		
受講資格	大学院修士課程の院生	**成績評価** **方法**	英文講読の和訳の提出60点、レポート提出40点 合計100点満点
教科書	特にありません。授業に必要な印刷物は配布します。		
参考書	国民衛生の動向 Healthy women, healthy lives. a harvard medical school book ISBN 978-0-7432-1774-3		
学生への要望	授業では、パソコンを使用することがあるので、パソコンは常に持参すること。		
オフィスタイム	水曜日のⅤコマ目、木曜日のⅣコマ目 臨床生理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康の概念	健康とはなにかを、公衆衛生学の立場から、あるいはWHO憲章、日本国憲法の生存権から考える。	健康とはなにかについて調べる	60
2	成人の健康	生活習慣病とはなにか、またそのリスクと予防について考える。健康日本２１と健康日本２１（二次）について考える。	生活習慣病について考察する	60
3	疫学（1）	疫学とは。疫学の歴史。個人の健康から集団の健康へ。	疫学の概念について調べる	60
4	疫学（2）	疫学の種類。疫学の利用	良く使われる疫学について調べる	60
5	保健統計（1）	集団の健康評価に必要な保健統計について。人口静態統計と人口動態統計について。	人口静態・動態統計の違いを調べる	60
6	保健統計（2）	人口ピラミッド。合計特殊出生率。年齢調整死亡率。保健統計からみた少子高齢化。	わが国の合計特出生率について	60
7	保健統計（3）	疫学研究に必要な統計の基礎。統計ソフトIBM-SPSSについて。	統計ソフトIBM-SPSSの利用法の学習	60
8	保健統計（4）	SPSSの実際。SPSSを用いてデータの解析を行う。	SPSSをサンプルデータを用いて実際に使用してみる	60
9	高齢者の健康（1）	老化の概念。	老化の概念について考察する	60
10	高齢者の健康（2）	加齢による生体の生理的変化。健康と生活の質	加齢に伴う骨・筋の変化について学習する	60
11	女性の健康（1）	英文講読”Healthy women, healthy lives"米国ハーバード大学医学部から出版されている「女性の健康的な生き方」についてのテキストをもとに”健康”について考える	与えられた部分の和訳を行う	60
12	女性の健康（2）	上記テキストの中にある、”看護師の健康研究とは”について英文和訳をしながら学習する。	英文和訳の継続	60
13	女性の健康（3）	”健康研究”を講読しながら疫学について解説、学習する。	和訳部分を解釈し意味の理解に努める	60
14	健康生活と毒性学	化学物質の安全性。毒性物質の体内動態。農薬の毒性について理解を深める。	量反応関係について理解を深める	60
15	総括講義	これまでの講義をまとめ”健康”について理解を深める。	これまでの講義を参考にして、もう一度「健康」について振り返り考察する	60

令和5年度

科目名	人間生体特論Ⅰ	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	西山　慶治		
開講期	前期		
授業概要	人体を構成する基本的構造と機能を学ぶため、細胞、組織、器官並びに系統別レベルで学修します。この学修によりヒトが進化して現在の構造と機能を獲得する過程で、人体に具現化された自然の法則を学びます。授業の中間（8回目終了時）に小問のレポートを課し、内容をフィードバックします。		
達成目標	人体について構造と機能を理解し、さらに人類の進化を学修することによりヒトの形態と機能を概説できる。内容の7割を理解することを希望します。		
受講資格	大学院に籍をおき、人類の進化に興味を抱くこと	**成績評価** **方法**	理解度の確認レポート（1回目40%、2回目３０％、３回目３０％） 合計１００％(100点)
教科書	講義プリントを配布して使用		
参考書	シンプル解剖生理学、入門人体解剖学、他		
学生への要望	人体の構造と機能を学び、ヒトの存在について考える。		
オフィスタイム	水曜日あるいは木曜日の放課後（5校時以降）に家政学館2階解剖学研究室において。　不在の時にはメモを残すこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	解剖学総論	人体とは、自然の法則が人体を借りて具現化されたものである。その法則を人体の基本構造から学ぶ。	人体の基本的形態、特徴、進化、系統、器官、組織、細胞などの基本的用語を確認する。	60
2	細胞学	生命の最小単位である細胞について、その構造と機能を学ぶ。	細胞の構造と機能、遺伝子の働きを復習する。	90
3	組織学総論	人体を構成する上皮組織、支持組織、筋組織並びに神経組織について学ぶ。	人体の4つの組織の概念を調べる。	30
4	骨格系Ⅰ	人体の支柱である骨格の組織構造と役割、発生、機能・経年変化、骨の連結を学ぶ。	骨の構造、組織、働き、連結、発生を調べる。	60
5	骨格系Ⅱ	各骨格の名称と形状を学び、各部位での役割を理解して人体の特徴を学ぶ。	主要な骨の名称と形状を学び、関節の動きを考える。	60
6	筋系	骨格筋の概略を学び、運動器としての役割を理解する。	筋肉の種類、筋収縮、主要な筋の作用を調べる。	60
7	消化器系Ⅰ	消化器の各部位の構造を学び、消化機能の概略を理解する。	消化器の各部の位置、名称、形、役割をまとめる。	90
8	消化器系Ⅱ	消化器の主要部位の組織構造と機能を学ぶ。	消化腺の名称、位置、役割をまとめる。	60
9	呼吸器系	呼吸器の各部位の構造を学び、呼吸機能の概略を理解する。	呼吸器系の主要部位の名称、位置、形態、働きを調べる。	60
10	泌尿・生殖器系	尿の生成と排泄を担う器官の構造と機能を学ぶ。 生殖器の構造、性差、発生並びにその機能を学ぶ。	泌尿・生殖器の主要部位の名称、形状、役割をまとめる。	60
11	脈管系、内分泌系	心臓を中心とした循環器の構造と役割を学ぶ。 ホルモンを使って情報を伝達する内分泌系の構造と働きを学ぶ。	体液の循環、心臓の位置、構造、全身の主要血管を調べる。	90
12	神経系Ⅰ	中枢神経系の脳と脊髄の位置、構造、機能について学ぶ。	脳と脊髄の形状、位置、働きを調べる。	60
13	神経系Ⅱ	末梢神経の脳神経と脊髄神経並びに自律神経について学ぶ。	末梢神経の主要なものの名称と分布を調べる。	30
14	感覚器系	人体の情報入力器官である感覚器の構造と機能を学ぶ。	５感の感覚器の名称、形、働きをまとめる。	60
15	発生学	人体の発生と形成を学び、人類の特徴を理解する。	人体の発生と成長並びに老化を考える。	30

令和5年度

科目名	家政学原論Ⅰ	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
担当教員	安田　純子		
開講期	前期		
授業概要	「家政学とは何か」という家政学全体を展望しうる視野を持ってその専門性を発揮していくことは家政学を学ぶ者に求められる専門的資質です。家政学原論（Philosophy of Home Economics)の目標とするところは、家政学とはどのような学問であるかを解明することです。そのために、家政学の目的、対象、方法、独自性などを考察し、定義（理念）を明確にし、学問として備えるべき要件や領域を明示することを要します。これに関連して、歴史的変遷や展開過程、世界的な学問の動向などを理解し、本学の家政学、特に家政哲学の理解を通して、家政学の学問としてのあり方を探究し、さらには現代的意義についても考えていきます。最終授業で全体を振り返り、まとめをします。		
達成目標	本学の家政哲学を深く理解し、本学の家政学、特に家政哲学を深く理解していること。 単位認定の最低基準は、内容の７割以上を理解していること。		
受講資格	大学院（修士課程）	**成績評価** **方法**	発言力（20%）、レポート（80%）
教科書	随時、紹介します。		
参考書	関口富左編著『家政哲学』家政教育社 関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社 O.F.ボルノー、須田秀幸訳『実存主義克服の問題』未来社 O.F.ボルノー、小島威彦訳『人間の棲家』めいせい出版 日本家政学会　家政学原論部会　編『やさしい家政学原論』建帛社		
学生への要望	事前に資料や参考文献などに目を通しておくことが望ましい。		
オフィスタイム	火曜日と金曜日を除く昼休み（12：00～12：50）水曜日14:30～16:30 創学館４階N0.１研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス　家政学への接近	家政学を知るということ　家政学原論とは何か、家政学における原論の意味と必要性を考える。	講義資料について復習する。	60
2	家政学の発祥と変遷（１）	家政学の展開過程について、近代家政学の発祥地とされるアメリカ家政学を中心に、特にその思想の源流とされるエレン・リチャーズの思想を通して解説する。	講義資料について予習・復習する。エレン・リチャーズのヒューマン・エコロジー思想は家政学を学ぶにあたりどのように役立つかを考える。	60
3	家政学の発祥と変遷（２）	日本における家政学の展開過程について、社会的背景とともに把握する。科学（学問）として家政学が成立するために求められた条件について考える。	講義資料について予習・復習する。『やさしい家政学原論』第４章を読む。	60
4	家政学とは何か（１）	家政学の定義の比較と意味内容の検討をする。そこから関口富左氏（故名誉学園長先生）の定義は、個人や家族に視点があてられていること、その視野は世界にまで向けられ、時間軸は現代に至ることを理解する。	講義資料について予習・復習する。家政学の定義を調べ、特に『家政哲学』において関口氏の定義を熟思する。	60
5	家政学とは何か（２）	家政学の研究目的・研究方法・研究対象について解説する。またその独自性と研究領域について解説し、方向性を検討する。	講義資料について予習・復習する。『やさしい家政学原論』第２章などを参考に検討する。	90
6	家政学確立への模索とその経緯	関口富左氏（故名誉学園長先生）が家政学において、O.F.ボルノーの哲学を独自に展開し、その理念である「人間守護」を主軸とする家政学確立のために『家政哲学』を世に出された経緯を解説する。「家政学確立への模索ー哲学を求めて」を読み進め理解を深める。	講義資料について予習・復習する。『家政哲学』第１章を読む。	60
7	O.F.ボルノーにおける人間の住むことの哲学	本学の家政学の哲学的基礎となっている、O.F.ボルノーの「住むこと」の根本的思考（人間学的意味）について、ボルノーの講演録『人間とその家』を通して解説する。	講義資料について予習・復習する。『人間とその家』から考える。ボルノー思想と家政学的視点とは何か。「住むこと」とは何か。＊人間生活の学としての家政学をみるときのよりどころとして実存的視点の必要について考える。	90
8	家政哲学の内容理解（１）	関口富左氏（故名誉学園長先生）編著による『家政哲学』（家政教育社）における構想を解説し、「人間守護と家政学」について読み進め内容の理解を深める。	講義資料について予習・復習する。『家政哲学』第３章を読み理解を深める。空間性と時間性、合理性と非合理性など。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	家政哲学の内容理解（２）	引き続き、『家政哲学』の「人間守護と家政学」について読み進め、さらに全体的把握に努める。O.F.ボルノーにおける「家の意味」と本学の家政学における哲学的基盤の一つである、サン・テグジュペリの『城砦』から提起された家の人間学的意味について説明し、理解を深める。	講義資料について予習・復習する。『家政哲学』第３章で理解したことをまとめる。	90
10	人間守護の家政学（１）	関口富左氏（故名誉学園長先生）編著による『人間守護の家政学』（家政教育社）における「家政学はどのような学問であるか」を読み、家政学原論の理解を深める。「家・家庭・家族の人間的意味」を読み進める。	講義資料について予習・復習する。『人間守護の家政学』第１章第２節を読み、授業後まとめる。	60
11	人間守護の家政学（２）	引き続き『人間守護の家政学』を読み進める。「家政学の究極目的としての『人間守護』」を読み、人間守護の概念を理解する。	講義資料について予習・復習する。『人間守護の家政学』第２章第１節～第３節を読み、授業後まとめる。	60
12	人間守護の家政学（３）	引き続き『人間守護の家政学』を読み進める。「家政学の定義・対象・方法」を読み、人間守護の家政学の定義と家政学独自の研究方法論を理解する。	講義資料について予習・復習する。『人間守護の家政学』第４章を参考に家政学の定義・対象・方法をまとめる。	90
13	人間守護の家政学（4） 本学家政学における研究方法	引き続き『人間守護の家政学』を読み進める。「家政学の独自性」を読み、二相性を理解する。　本学家政学における研究方法―無記性的研究方法、使用価値的研究方法、人間価値創出的研究方法について解説する。	講義資料について予習・復習する。『人間守護の家政学』第５章を参考に家政学の独自性としての二相性についてまとめる。	60
14	人間守護の家政学（家政学の使命と課題）	家政学の研究は人間生活全般に視点が広がり、内容も他領域に散在しつつ発展している。ここでは、家政学諸科目の構造性を整序究明し、人間生活の学として、その内容の総合化、更に、人間生活への還元について理解を深める。	講義資料について予習・復習する。配布資料をもとに家政学が人間生活の学としていかに人間生活に還元するかを考える。	60
15	総まとめ	IFHE（国際家政学会）ポジション・ステートメント及びSDGs（持続可能な開発目標）をうけ、本学の「家政哲学」ならびに本学の家政学における「人間守護」の理念に基づく学問研究を進めていくことが今後ますます重要になることを確認する。	講義資料について予習・復習する。配布資料をもとに家政学の研究課題について考えをまとめる。	90

令和5年度

科目名	生活学原論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
担当教員	安田　純子		
開講期	後期		
授業概要	人間の生活内容はその社会的背景と連動して著しく変化してきています。多くの社会的構造と機能の変化は、生活の場に深く関わってきています。この変化の進行と同時に社会・経済・環境など様々な問題が浮かび上がっており、家族や個人の生活について経済的・社会的・地域的レベルを考慮した研究が必要となっています。本授業では、生活学の目的、対象、方法、意義を明確にし、学として生活とは何かを探究していきます。生活学を紐解くにあたり、川添登著『生活学の提唱』を通して生活学の系譜をたどり、日本における生活学の原点ともいえる今和次郎の「生活学」の内容を理解します。生活学は何を問題として、どのようなアプローチによって分析しようとするのかについて考えていきます。続いて、時間的変遷（過去の正確な把握）を踏まえ、生活の変容、つまり、生活を家族、生活様式、労働、文化、高齢化社会、危機管理、情報社会、資源・環境との調和の面から捉え、生活はどのような要因によっていかに変化してきたかを考察していきます。そして日本人の生活に家政学の研究がどのように関わり、貢献しているかを探究するとともに、人間生活学としての本学家政学の内容を理解します。更に、「多様化」・「ワーク・ライフ・バランス」・「持続可能」などのキーワードをもとにこれからの生活を展望します。		
達成目標	生活とは何かを探究し、生活学の目的、対象、方法、意義について認識できること。 単位認定の最低基準は、内容の７割以上を理解していること。		
受講資格	大学院（修士課程）	成績評価 方法	受講態度と発言力（20%）、レポート（80%）
教科書	随時、資料を配布または提示します。		
参考書	川添登著『生活学の提唱』ドメス出版、　日本家政学会編『日本人の生活』建帛社、今和次郎『今和次郎集第５巻生活学』ドメス出版、　佐藤真弓『生活と家族』一藝社　その他随時、紹介します。		
学生への要望	事前に資料や参考文献などに目を通しておくことが望ましい。		
オフィスタイム	火曜日金曜日を除く昼休み（12：00～12：50） 水曜日14:30~16:30 創学館４階No.１研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス　生活とはー生活を考える	「生活」のとらえ方　生活とは何かー衣生活・食生活・住生活において、人間生活について、機能的役割・人間関係・意義・変化という観点から考察していく。”生活”の解明には、総合的・学際的アプローチを要求される。	講義資料について復習する。配布資料をもとに考える。＊様々な生活論	60
2	生活学とは さまざまな生活の要素	・経済学の観点からの労働を、休養・娯楽・教養の諸領域からの観点から捉え直し、総体として扱う生活学、生活の質の分析までも含めた生活研究であることを確認する。 ・時間・空間・人間・衣・食・住・お金などの生活要素と家族の関わりについて追究する。	講義資料について予習・復習する。配布資料を読みまとめる。	60
3	生活学の対象と方法	生活学は何を問題とし、どのようなアプローチによってそれを分析していくのか。 ・対象は、日常生活であり、身近なもの、具体的なものであること、生活者サイドの学問であり、その研究は複数の個別科学の協力のもとに、総合的な視点からのアプローチによって進められるものであることを確認する。	講義資料について予習・復習する。配布資料などをもとに対象と方法を確認する。	60
4	家政学と生活学（１）	川添登氏の『生活学の提唱』における「家政学と生活学」から、隣接科学である家政学の検討と批判を通した生活学のあり方についての考えを検討する。家政学を女性の学・生活者の学・民間の学とする考えを検討する。	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』ｐ.233~p.245	60
5	家政学と生活学（２）	ひき続き、川添登氏の『生活学の提唱』における「家政学と生活学」について読み進め、生活学のあり方についての考えを検討する。	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』ｐ.233~p.245　家政学と生活学についてまとめる。	90
6	生活学の系譜①　考現学（１）	今和次郎の「生活学」ともいえる「考現学」について、出生、動機と背景、考現学以前、方法の学、野外科学などから理解する。　＊生活改善　民家研究	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』ｐ.133~p.148	60
7	生活学の系譜②　考現学（２）	ひき続き、考現学について理解を深める。	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』ｐ.133~p.148　考現学についてまとめる。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	生活学の系譜③ 生活学の提唱ー今和次郎の現代的意義（１）	生活学の出自、考現学から生活学へ、生活学の可能性、生活学の方向性、国民学としての生活学、について理解する。	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』 p.187~p.215 ＊『生活学』 p.11~p.108	60
9	生活学の系譜④ 生活学の提唱ー今和次郎の現代的意義（２）	引き続き、生活学の可能性、方向性などについて、理解を深める。	講義資料について予習・復習する。『生活学の提唱』 p.187~p.215 ＊『生活学』 p.11~p.108　今和次郎の生活学についてまとめる。	90
10	生活の変容① 日本人の生活（１）	・変容する家族、消費生活様式の変遷　（家族観・家族・教育・ジェンダー・衣食住生活・戦後日本の都市化と近代化・消費経済　など。）	講義資料について予習・復習する。『日本人の生活』第１章・第２章を参考に考察する。	60
11	生活の変容② 日本人の生活（２）	・生活文化の伝承と創造、日本型高齢化社会における生活・多様化する生活、ワーク・ライフ・バランス　など。	講義資料について予習・復習する。『日本人の生活』第３章・第４章と配布資料 を参考に考察する。	60
12	生活の変容③ 日本人の生活（３）	・情報社会と家庭生活、生活の危機管理（震災に学ぶ） ・資源・環境とライフスタイル、持続可能な生活　など。	講義資料について予習・復習する。『日本人の生活』第５章～第７章を参考に考察する。	60
13	シビル・ミニマム	都市化社会において、市民が生活していくうえで最低限必要な生活（環境）基準であるシビル・ミニマムについて、具体的には生活の社会化に伴って必要とされる社会保障・社会資本・社会保健について理解する。＊ナショナルミニマム	講義資料について予習・復習する。シビル・ミニマムとは何か事前に調べてみる。	60
14	生活の外部化と危惧 人間生活学としての家政学 生活学の立場	生活の外部化の問題、利便性・効率性に振り回される生活スタイルについての危惧、持続可能な社会において質の高い生活の実現に貢献する人間生活の学としての家政学の重要性を理解する。人間を中核とし、その居場所を家庭とみる本学の家政学が、その対象を家を中心とし、地域社会、国、世界に及ぶ人間生活学であることを理解する。　＊立場－生活のなかで人間を見て、人間を通して生活を見つめ、人間にとっての生活（生きることの）意味を探究すること。	講義資料について予習・復習する。生活の外部化や持続可能とはどのようなことか考える。また、『日本人の生活』などを参考にして、生活学の立場、人間生活の学としての家政学を考えまとめる。	90
15	新しい生活様式の創造 生活の未来	学として生活をみることは、身近な生活から、諸事象を分析・整理し、探究してきた歴史を踏まえて、いかに変化してきたかだけではなく、生活者として今後いかに生活していくかということを模索することであり、家政学に携わる者として人間生活の幸福に寄与する探究であることを理解する。	講義資料について予習・復習する。『日本人の生活』第８章「新しい生活様式の創造」を参考にして、生活学のこれからを考える。	60

令和5年度

科目名	生活文化史特論Ⅰ	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	福島　寅太郎		
開講期	後期		
授業概要	生活とは「衣食住」という言い方に示されるように同じことがくりかえされ、同じものが再生産され、同じように利用され大きく変化しないことである。つまり日常茶飯事というごくあたりまえの暮らしのことである。授業では「冠婚葬祭」という日本人の一生の節目、節目にくりかえされてきた人生儀礼をとりあげながら、その意味を考え、そこから日本人の生き方の価値観を探ることする。		
達成目標	日本人の一生の節目にくりかえし行なわれてきた人生儀礼・冠婚葬祭を学ぶことによって日本人の生きることの意味を知ることができるようになる。殊に人生儀礼は宗教的要素がとりいれられているため聖俗をともに生きてきた日本人の特質をしることができる。 単位認定の最低基準は:は「内容の7割以上を理解していること」 DPとの関係:研究能力、研究課題		
受講資格	大学院修士課程1年	**成績評価** **方法**	レポートを前期に一本、後期に一本提出してもらいます。各５０点で１００点で評価する。
教科書	使用しない。発表の資料をあらかじめ渡しておく。		
参考書	必要に応じ紹介。		
学生への要望	問題意識を常に持ち、身の回りの暮らしに絶えず関心を持ってください。殊に人生儀礼に注意をはらうようにしてください。発表の資料をあらかじめ渡しておきますので、よく予習しておいてください(１時間ぐらい時間をかけて）。また授業をふまえて、その内容をまとめておくこと（１時間）。		
オフィスタイム	金曜日Ⅳコマ目　創学館４階№５研究室。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	老いの民俗１	長寿の民俗をとりあげます。沖縄のカジマヤーの祝い（９７歳の祝い）を見ることにします。そこでは長寿を祝うと同時に９７歳の年寄りを死の世界に送りこむことが行われます。それ単なる死ではなく再生を意味し、長寿が人を超えることをあらわします。		1.5
2	老いの民俗２	８８歳、つまり米寿の祝いをとりあげます。さこには米にかかわる数の呪力、そして仏教のミロク信仰をみることができます。稲作民である日本人の米と年齢の関係を考えます。		1.5
3	老いの民俗３	還暦、古希、喜寿、米寿などの長寿の祝いは歳祝いであり、厄を払う意味もあります、またこれらの歳祝いには必ず贈答が行われますが、それは長寿のあやかる、長寿の霊をもらうという意味もあります。		1.5
4	老い民俗４	長寿者の葬式の際に配られる長寿銭、民話の中にみられる若水を飲んで若返る年寄りの話など長寿者の死を積極的に扱い、老いからの若返りに積極的意味を見出すことの背景を考えます。		1.5
5	誕生の民俗１	この世に誕生したばかりの赤ん坊は霊的にあの世につながっていました。誕生後の産育儀礼は赤ん坊をこの世の存在にするために行われます。しかも、その儀礼は意図的に境界で行われます。		1.5
6	誕生の民俗２	赤ん坊をこの世にもたらした産神はどのような神なのでしょうか。殊に出産のケガレを嫌わない産神の特徴は神社に祀られる氏神や家の神とは全く異なるものです。		1.5
7	誕生の民俗３	出産の直後に供えられる産飯は赤ん坊に魂を付着するために行われます。あの世の存在である赤ん坊が人間として認められるには身体の成長と同時に魂も必要であったのです。		1.5
8	誕生の民俗４	出産のための産小屋は出産のケガレを避けるために作られたといわれてきました。しかし、そこには新しい生命の誕生にともなう神秘性や産婦へのやさしい心遣いもみられます。		1.5
9	育児の民俗１	産祝い、セッチン参り、宮参り、食い初め、初節句、初誕生などの儀礼から子どもがどのようにして社会に受け入れられていくかを考えます。殊に魂の強化と贈答関係に注目します。		1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	育児の民俗２	七五三、七つ子参りなど七歳の頃に多様な儀礼が行われます。それは七歳の頃が子どもから大人への第一段階とみなされていたからです。七歳の社会的意味と宗教的意味を考えます。		1.5
11	成人の民俗１	成人儀礼の歴史を古代の天皇、貴族、中世と近世の武家儀礼から概観するとともに、それらの儀礼が庶民の成人儀礼にどのような影響をあたえたかを考えます。		1.5
12	成人の民俗２	成人儀礼の中に袴着やフンドシ祝い、腰巻祝いなど身体にあらたに着物や飾りをつけることがあります。これは身体装飾の成人儀礼であり、性差を明確にする意味がありました。		1.5
13	成人の民俗３	お歯黒（カネツケ）も身体装飾の成人儀礼です、十五カネは１５歳の時に歯を黒く染めることです。お歯黒は女性のみに行われ、結婚式よりも派手に行われました。		1.5
14	成人の民俗４	１３歳の時に虚空菩薩に参る十三参りは１３歳が厄であることと仏教が習合して生まれた成人儀礼です。しかも、子どもにとって初めての旅の経験でもありました。子どもは初めて世間を知るのです。		1.5
15	成人民俗５	一人前とは大人として決められた労働量や仕事量ことであり、これをこなすことが社会で大人として認められることでした。機械化以前の社会では労働を交換して共同労働をしなければ社会は維持できなかったのです。		1.5
16	結婚の民俗１	ヨバイは前婚姻的自由交渉といい若者組や娘組の存在があって初めて可能でありました。また自由恋愛も若者組や娘組の存在が必要でした。若者組と娘組が結婚を媒介する上で大切な役割を果たしていたのです。		1.5
17	結婚の民俗２	日本における古い結婚形態は婿入り婚でした。婿が嫁方に来ることによって結婚が成立し、それからしばらくの間、婿は妻訪いをし、それから嫁の婿方への引き移りが行われるのです。一時的な妻訪いであり、母系制とは関係ありません。		1.5
18	結婚の民俗３	婿入り婚の後に生まれたのが嫁入り婚であり、式と同時に嫁は婿方に引き移ります。これは婿入り婚のように妻訪いができなくなったために生まれた結婚形態と考えられいます。しかし、文化の系統の違いからの説明が可能かもしれません。		1.5
19	結婚の民俗４	嫁入りの際、火を燃やしたり、火をまたぐ儀礼がみられます。それは境界を越える花嫁の危機的状況を象徴的にクリアする意味があるのではないかと考えられています。また歴史的に遡ると渡来系の人々や武士の世界でうまれたとも考えられています。		1.5
20	結婚の民俗５	三々九度の盃、披露、実家帰り、水祝儀などの儀礼から嫁と嫁の実家との関係、婿と未婚の若者との関係を考えると同時に新夫婦がどのようにして社会的承認を得ていくのかを考えます。		1.5
21	死の民俗１	死の直後、死者の名を呼ぶ魂呼びが行われました。これは死によって身体を離れた魂を呼び戻し再生を願う意味があります。つまり死と生の区別は魂の動きと密接に関係していたのです。		1.5
22	死の民俗２	死者の傍らに寄り添い、飲み食いをしたり、死者を何日間も見に行ったりすることは、古代に見られたモガリの風習の名残りとみなされています。つまり、死者の再生を願った儀礼なのです。死の決定の意味を考えます。		1.5

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
23	死の民俗３	北枕、刃物を死体の上に置くこと、猫が死体をまたがないようにすることなどには死者への恐怖と別の魂が死体に入ることへの不安がみられます。生から死への移行は大変な危機の状況であるという考えがみられます。		1.5
24	死の民俗４	仮死状態での体験を臨死体験といいます。その背景には死後の魂の移動が考えられます。しかも、臨死体験には川が流れていたり、花が咲いていたり、先祖がいたりと他界のイメージが色濃く見られますが、注目したいのはそれが生者に語られることです。		1.5
25	死の民俗５	死のケガレは伝染すると考えられ、それに対処するためにいろいろな呪術や儀礼が行われました。耳ふたぎ餅やひっぱり餅などはその具体例ですが、このような対処の民俗から死のケガレの本質を考えてみます。		1.5
26	死の民俗６	葬式は組合や講などの地域の互助組織によって行われました。この互助組織は葬家を助ける経済的意味がありましたが、同時に死への対処という呪術的意味や死の社会的確認などの意味もありました。		1.5
27	死の民俗７	死後の死者供養は魂に対して行われます。四十九日、彼岸、盆、正月などに行われる死者供養などを経ることによって死者の魂は清浄となり、個性を失っていくのです。		1.5
28	先祖祭祀１	日本の先祖は個人名ではなく「先祖さん」とわれるように漠然としたものでした。そこには父系、母系という系譜を明確にするという理念的な先祖祭祀をみることができません。		1.5
29	先祖祭祀２	現在、仏壇が先祖祭祀の重要な場になっていますが、かつては仏壇以外にも家の中には先祖を祀る臨時の場がありました。しかも、仏壇はかつて家の外の仏堂であったともいわれています。		1.5
30	脳死	臓器の移植にともない脳死があらたに死と認められるようになりました。法律による死の決定です。それは言い換えれば新しい社会的死の決定であります。かつての社会的死がオープンであったことと比較してみます。		1.5

令和5年度

科目名	生活文化史特論Ⅱ	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	桑野　聡		
開講期	前期		
授業概要	大学院生として各自の専門研究領域を客観的に位置づけられる視野を持つために、歴史学・文化史の立場から現代的・社会的問題の所在を考える。ヨーロッパ文化（欧米文化）を例に院生各自の研究に対応した課題を取り上げながら、文化の形成・変容・継承の問題を考える。近代文明が多数の地域文化の融合の上にヨーロッパ文化を共通要素として形成されていることに着目し、その問題点を考えると共に、私たちの未来に関わる諸問題を検討する機会を作ってみたい。　講読時の討論や課題に対してコメントや修正点の提示を行うことでフィードバックする。		
達成目標	問題を見つける姿勢・討論する力・調べる方法と技術などを身に着ける。		
受講資格	本学大学院生	**成績評価方法**	授業時の討論（５０％）と小課題（５０％）
教科書	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」（関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社　1999年）264～276頁		
参考書	授業時に適宜紹介する。		
学生への要望	①自分自身の研究テーマをきちんと説明できる姿勢をもつこと。 ②新聞やニュースを見る日常生活の姿勢をもつこと。 ③議論に積極的に参加する主体性をもつこと。		
オフィスタイム	火曜Ⅰ時限目（8:50～10:20）・金曜Ⅴ時限目（16:10～17:40）　考古学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	参加院生の研究テーマを確認し、授業の進め方を検討する。	異文化理解のための議論を展開するためのウォーミングアップをする。	60
2	講読１－①	村田哲朗「文化の多様性」をテキストに、文化と文明について討論する。	日本人が考える「文化」「文明」の考え方を理解する。	60
3	講読１－②	村田哲朗「文化の多様性」を踏まえて、各自の研究との関連テーマで討論を実施する。	文化の多様性とは、価値観の多様化を意味することを理解する。	60
4	講読２－①	桑野聡「欧米諸国における生活と文化」をテキストに通読し、問題点の洗い出しを行う。	日本人として西洋文化・文明に対する自分の考えを整理する。	60
5	講読２－②	第1章「欧米文化の歴史的役割」を手掛かりに、日本人にとってのヨーロッパについて考える。	近代化の歴史と西洋文化・文明の不可分な関係を理解し、歴史を見る立ち位置を考える。	60
6	講読２－③	第2章「中世ヨーロッパ貴族の生活文化」を手掛かりに、中世ヨーロッパの貴族の誕生について考える。	高校世界史の基礎知識を確認しておく。	60
7	講読２－④	中世の理想像である「騎士」と騎士道について考える。	イメージとしての騎士と中世の実像を区別し、理解する。	60
8	講読２－⑤	貴族の彫像、とりわけ横臥像を例に、中世貴族の死生観や家門意識について考える。	ヨーロッパ観光で訪れることの多い教会の重要な構成要素として貴族の彫像を考える。	60
9	講読２－⑥	西洋料理が成立する以前の中世の食事について考える。	大航海時代以前の中世ヨーロッパの食文化をイメージしてみる。	60
10	講読２－⑦	「宮廷風恋愛」として知られる中世の恋愛について考える。	レディ・ファーストとされる西洋文化の異なる側面と構造的特徴を理解する。	60
11	講読２－⑧	第3章「近世ヨーロッパ貴族の生活文化」を手掛かりに、ヨーロッパの文明化の問題を考える。	中世後期から近代化という概念が意味する文化の変容を理解する。	60
12	講読２－⑨	啓蒙主義と近世の貴族の問題を考える。	人間が平等であるという考え方は何故成り立つのかを考えてみる。	0
13	講読２－⑩	近世の「家政学」について考える。	現在の家政学とは異なる前近代ヨーロッパにおける家政学の概念を理解する。	60
14	講読２－⑪	第4章「国際化と異文化理解のための視点」を手掛かりに、近代における異文化理解について考える。	文化融合と文明化の意味を考え、この理解が時として差別や対立を生んできたことを理解する。	60
15	まとめ	半期の講義をまとめ、各自の研究テーマとの関係から異文化理解について検討する。	自分の研究テーマの社会的価値や他者から見た時の問題を話し合う。	60

令和5年度

科目名	生活経済学特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	長谷川　貴弘		
開講期	後期		

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 本講座の目的は、経済学においてより生活と密接につながっている分野について学修し、学究能力を深めることである。 〔授業全体の内容の概要〕 具体的には、経済学の基礎的事項（インフレーションとデフレーション、ＧＮＰとＧＤＰ等）、一家庭の経済生活である「家計」の歴史、家計経済の最近の傾向・今後の動き、さらにはライフサイクルの変化と各ライフステージごとにかかる費用とそれに伴う貯蓄と負債等について採り上げる。 なお、内閣府での勤務経験を活かし、講義の中で統計資料の見方、活用の仕方について採り上げ、家計調査を中心とする統計資料を読み解く能力を高め、気付きの点をレポートにまとめる能力を養うこととを目標とする。 〔実務経験に関する内容〕 内閣府政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（海外担当）付任期付職員として従事。 〔課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法〕 講義時にコメントにてフィードバックを行う。
達成目標	〔達成目標（授業終了時の達成課題）〕 経済学が生活と密接した学問であることを理解した上で、経済データを読み取る能力と気付きの点についてレポートにまとめる能力を身に付けていること。 〔単位認定の最低基準〕 授業内容の7割程度を理解していること。

受講資格	特になし。	成績評価 方法	各回の課題30点、レポート70点で評価する。
教科書	教員が毎回資料・プリントを配付する。		
参考書	重川純子「生活経済学」放送大学教育振興会、2016年 他教員が紹介する。		
学生への要望	授業内容をよく把握し、積極的に発言すること。毎回の課題にしっかり取り組むこと。		
オフィスタイム	火曜日　4コマ目　金曜日　3コマ目 食品経営学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	生活経済学とは何か①	授業の進め方、評価方法について説明する。 古代から現代までの生活経済を概観し、生活経済学の位置付けについて学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
2	生活経済学とは何か②	日本における戦後の経済生活とその変化について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
3	生活経済学とは何か③	国内総生産（ＧＤＰ)と国民総生産（ＧＮＰ)が意味するもの、その違いについて学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
4	生活経済学とは何か④	インフレーションとデフレーション、経済体制（市場経済と計画経済）について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
5	家計研究史①	世界と日本の家計研究史について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
6	家計研究史②	世界と日本の家計研究史について学修する。（前回の続き）	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
7	家計をめぐる法則①	エンゲル係数と、エンゲルの法則をめぐる議論について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
8	家計をめぐる法則②	ぜいたく品と必需品の違い、消費者物価指数について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
9	ライフサイクルと経済①	ライフサイクルの概念及びその歴史的変化について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
10	ライフサイクルと経済②	ライフサイクルの中のライフステージの各段階における経済状況の変化及びそれにかかる費用について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
11	ライフサイクルと経済③	家計の収入・支出の種類について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
12	ライフサイクルと家計①	単身世帯と2人以上の世帯の家計	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
13	ライフサイクルと家計②	離婚の経済とひとり親世帯の家計について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	ライフサイクルと家計③	高齢者世帯の家計について学修する。	配布したプリントをよく読み、授業を通じて気づいた点をまとめておくこと。	60
15	授業内容のまとめ	これまでの学修内容を振り返り、疑問に思った点等についてディスカッションを行う。	ディスカッションを通じて明らかとなった課題に対処し、レポートをまとめること。	60

令和5年度

科目名	教育政策科学特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	山本　裕詞		
開講期	後期		
授業概要	本講義では、戦後日本の教育政策の変遷を確認しながら、それが人々の生活に与えた影響を分析する。特に、近年の教育政策の急激な変化に注目する際には、家庭や地域の教育機能も含めて、次世代の育ちを支援するための、あるべき教育政策となっているかを批判的に考察していく。 なお、各回の受講生の発表について、その都度、その方法、内容等についてディスカッションを行うアクティブラーニングの手法をとる。そして、ディスカッションの結果を受けて、授業内容を見直すことがある。また、最終の授業において、授業全体のフィードバックを行う。 授業担当者には、中等教育（神奈川県立新羽高等学校、白根開善学校）や発達障害児教育（フリースクール飛翔）での教員経験がある。履修者には文献講読が課されるが、発表の際のディスカッションにおいては、授業担当者の教職実践者としての経験を踏まえた考察も加えられる。 位置づけ・水準（修士課程選択科目）		
達成目標	1.戦後日本の教育政策史を知り、政策の意図を理解し、説明することができる。 2.戦後日本の教育政策について、自ら課題を設定し、課題解決の為の資料を入手することができる。 3.自ら設定した課題について、先行研究を探し、それを批評することができる。 4.近年の教育政策について、論理実証的に評価し、説明することができる。 単位認定の最低基準は、上記1～4の目標が、総合的に7割以上達成できたと見込めることとする。		
受講資格	教育政策について、主体的に探究する意欲を持ち、自律的に学習する方法を会得したいと強く願っている者。	**成績評価方法**	授業の中で義務付ける課題研究の発表内容を中心（70%）に、課題レポート（30%）と総合して評価する。
教科書	用いない。		
参考書	教育法令研究会編『教育基本法の解説』文部省1947年、五十嵐顕・伊ケ崎暁生編著『戦後教育の歴史』青木書店1970年、堀尾輝久著『現代教育の思想と構造』岩波書店1971年、山本冬彦編著『教育の戦後思想-その批判と継承-』農山漁村文化協会1995年、井深雄二著『現代日本の教育改革-教育の私事化と公共性の再建-』自治体研究社2000年等、必要に応じて授業内に提示する。		
学生への要望	講義と演習とを組み合わせた授業形式となるので、自主的な学習姿勢を持つことが授業履修の前提となる。課題認識に基づいて、その分析対象の選定を自ら行い、分析し、発表する。そして、発表結果の講評に基づく課題意識の深まりが、次の授業までの探求内容となっていくような、学びの循環をつくっていきたいと思う。したがって、どこまでも学生自身の主体的な学びの姿勢を貫いてほしい。		
オフィスタイム	時間については、時間割決定後に発表します。（前年度末仮設定：月曜日１．２時限） 場所：教職課程推進室１（図書館３F） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	シラバスを共有しながら、本講義の目的、授業の進め方、学習者が事前学習として学習しておくべき資料・先行研究の探索・入手方法、成績評価方法等について確認する。	復習 事前調査	120
2	教育勅語と教育基本法	我が国における戦前の教育体制から戦後のそれへの変遷について、「教育勅語と教育基本法」の比較を通じて理解を深める。 学習者は、事前に「教育勅語」と「旧教育基本法」についての基礎的知識を整理し、授業の冒頭で発表する。発表内容を確認した上で、不足部分を補いながら、その歴史的意義について考察を深め、今日に継続している論争点を紹介する。	復習 事前調査	120
3	政治的中立と国家の教育責任 １．教育委員会①	教育委員会制度の変遷についての事実を確認することを通して、「教育における政治的中立性」と「国家の教育責任」の内実が変質していることを理解し、その意義を考察していく。学習者は、事前に旧「教育委員会法」について調べ、現行の教育委員会制度との違いをまとめ、授業の冒頭で発表する。授業者は学習者の発表内容を確認した上で、必要に応じて解説し、情報を補いながら、今日に継続している論争を紹介する。	復習 事前調査	120
4	政治的中立と国家の教育責任 ２．教育委員会②	前回の授業で紹介された教育委員会制度に関する諸論争について、学習者は自己の見解をまとめて発表する。授業者は学習者の理解度に応じて、検討すべき課題を指摘するので、それを踏まえて学習者は、課題解決に向けての課題研究計画の作成を開始する。	復習 事前調査	120
5	政治的中立と国家の教育責任 ２．教育委員会③	学習者は、前回の授業から作成を開始した課題研究計画の発表を行うとともに、研究の進捗状況を報告する。授業者は、必要に応じてアドバイスを行い、特に授業者の作成した先行研究一覧の妥当性を評価し、改善点を指摘する。	復習 事前調査	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	政治的中立と国家の教育責任 ３．教育公務員特例法①	教育公務員特例法成立過程における「政治的中立と国家の教育責任」について、研究計画のモデルを示し、研究構想を発表する。学習者は、それと進行中の自己の課題研究との比較をした結果を自己評価し、必要に応じて改善・修正を行う。	復習 事前調査	120
7	政治的中立と国家の教育責任 ３．教育公務員特例法②	モデルとして作成された研究計画モデルに基づいて、授業者が研究発表のデモンストレーションを行う。学習者は、自身の研究についての進捗状況の報告と、必要に応じて課題を発表する。	復習 事前調査	120
8	政治的中立と国家の教育責任 ４．まとめと討論	学習者は研究計画に基づいて進めてきた自己の研究発表を行う。授業者は講評を行う。また、「教育における政治的中立と国家の教育責任」について、明確になった点を整理する。	復習 事前調査	120
9	新旧教育基本法における「教育行政」の比較	学習者は事前に平成18年以降の教育行政の参考書数点における「教育行政」の記述を収集し、比較分析して授業に望む。授業者によって解説される新法立法過程の議論を踏まえ、比較分析結果について総括する。	復習 事前調査	120
10	戦後日本の教育政策の変遷と国民への影響　①	授業者は戦後の政治的動向一般の変遷とオーバーラップさせながら、第9回までの学びを総括し、学習者は、次の３点について仮説を考察する。 １．旧教育基本法の成立が国民に与えた影響 ２．旧教育委員会法が廃止され地方教育行政の組織及び運営に関する法律が成立したことの国民への影響 ３．教育基本法が全部改正されたこと	復習 事前調査	120
11	戦後の教育政策が国民に与えたと思われる影響①	学習者は「旧教育基本法の成立が国民に与えた影響」について、第10回に立てた仮説の検証結果を発表する。授業者は発表内容を講評し、必要に応じて修正・補足を行う。	復習 事前調査	120
12	戦後の教育政策が国民に与えたと思われる影響②	学習者は「旧教育委員会法が廃止され地方教育行政の組織及び運営に関する法律が成立したことの国民への影響」について、第10回に立てた仮説の検証結果を発表する。授業者は発表内容を講評し、必要に応じて修正・補足を行う。	復習 事前調査	120
13	戦後の教育政策が国民に与えたと思われる影響③	学習者は「教育基本法が全部改正されたこと」について、第10回に立てた仮説の検証結果を発表する。授業者は発表内容を講評し、必要に応じて修正・補足を行う。	復習 事前調査	120
14	戦後の教育政策が国民に与えたと思われる影響④	授業者によって「戦後の教育政策が国民に与えたと思われる影響①～③」を総括する。	復習 事前調査	120
15	総まとめ	授業の総まとめと、近年の教育政策における原理上の課題を指摘する。	復習 レポート作成	360

令和5年度

科目名	特別支援教育特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	小林　徹		
開講期	前期		
授業概要	小林徹の中学校特別支援学級担任教諭としての指導経験や市町村教育支援委員としての幼稚園・保育所等との連携の経験に基づき、研究成果も踏まえて以下の内容を講義する。 １．特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 ２．特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 ３．さまざまな障がいと障がい児、特別な配慮を要する子どもの理解の視点と方法について理解する。 ４．障がい児等の個別支援計画の作成、評価について理解する。 ５．特別支援教育の実際について理解を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。 位置づけ・水準		
達成目標	１．特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 ２．障がい児や特別な配慮を要する子どもの個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 ３．さまざまな障がいと障がい児や特別な配慮を要する子どもを支援するための視点と方法について理解できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：		
受講資格	大学院人間生活学研究科人間生活学専攻修士課程の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点５０点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験５０点
教科書	杉本敏夫監修、松井剛太他4名編著『シリーズ・最新はじめて学ぶ社会福祉 第 23 巻「特別支援教育と障害児の保育･福祉」』ミネルヴァ書房,2023		
参考書	授業内で紹介する。		
学生への要望	障がいや障がい児について関心をもち、学習を深めてほしい。		
オフィスタイム	毎週水曜9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	特別支援教育の歴史	特別支援教育と障がい児保育の歴史的変遷について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	特別支援教育の制度と仕組み	特別支援教育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
10	その他の障がい	映像を通してその他の障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	他機関との連携	ゲストスピーカーを招いて、特別支援教育に関するさまざまな機関との連携について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその特別な教育的ニーズから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

令和5年度

科目名	社会福祉学特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	村田　清		
開講期	後期		

授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ジェントルティーチングなどの社会福祉の理論を学び、社会福祉の法制度がどのように整備・改正されてきたのかを踏まえて、社会福祉の現状と課題について理解する。さらに、児童家庭福祉。高齢者福祉、障碍者福祉、地域福祉などの各領域について、実践に基づいた考察・研究を深める 〔授業全体の内容の概要〕 資料に基づいて講義をし、文献、映像、写真などを参考に理解を深め、質疑や討論を行って社会福祉の全体像を把握する。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会福祉の理論を理解し、福祉援助者として必要な基礎的知識・技術や倫理性を習得する。
達成目標	〔授業の目的・ねらい〕 ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ジェントルティーチングなどの社会福祉の理論を学び、社会福祉の法制度がどのように整備・改正されてきたのかを踏まえて、社会福祉の現状と課題について理解する。さらに、児童家庭福祉。高齢者福祉、障碍者福祉、地域福祉などの各領域について、実践に基づいた考察・研究を深める 〔授業全体の内容の概要〕 資料に基づいて講義をし、文献、映像、写真などを参考に理解を深め、質疑や討論を行って社会福祉の全体像を把握する。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会福祉の理論を理解し、福祉援助者として必要な基礎的知識・技術や倫理性を習得する。

受講資格	大学院生	成績評価 方法	レポート(５０)、授業態度や研究意欲等（５０）により総合的に評価する。
教科書	特に指定しない		
参考書	国民の福祉と介護の動向（厚生労働統計協会発行）		
学生への要望	社会福祉の理念や意義を理解し、地域社会での人々の支えあいの在り方を学んでほしい。		
オフィスタイム	授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、社会福祉とは何か	オリエンテーション、社会福祉の基礎概念と現代社会について学習する。		0
2	社会福祉の歴史と変遷	社会福祉の歴史とその移り変わりについて、我が国と諸外国のあらましを学習する		0
3	社会福祉をめぐる近年の動向	高齢化・少子化の進展と時代の変化に対応した法律や制度の改正について学習する。		0
4	社会福祉基礎構造改革とノーマライゼーション	ノーマライゼーションやリハビリテーション理念の浸透や現代社会に影響を与えている社会福祉理論について学習する。		0
5	子ども家庭福祉の現状と課題	次世代育成や子育て支援・少子化対策など子供家庭福祉の現状と課題について学習する。		0
6	高齢者福祉の現状と課題	介護保険やさまざまな高齢者福祉サービスについて理解を深める。		0
7	障害者福祉の現状と課題	障害児者の福祉について、我が国の障害者施策や、ソーシャルインクルージョンの考え方を理解し、今後の障害者福祉を展望する。		0
8	地域福祉の現状と課題	地域の住民福祉の現状や社会福祉協議会の活動を学び、日常生活支援事業など地域の新しい支え合いについて学習する。		0
9	社会福祉サービス利用者の権利擁護	社会的に弱い立場にある人の人権を守る制度や思想について、また非暴力の支援理論であるジェントルティーチングを学習する。		0
10	社会福祉の行政組織と関係機関	社会福祉を担う行政組織や関係機関の役割や業務の内容について学習する。		0
11	社会福祉サービスの担い手	社会福祉サービスを担う専門職や従事者の現状と業務の内容について学習する。		0
12	社会福祉援助技術と援助の原則	社会福祉サービスを実施する理論や方法と基本的な原則について学習する。		0
13	社会福祉施設等の社会資源	社会福祉サービスを実際的に行う施設や地域の社会資源、ネットワークについて学習する		0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	社会福祉専門職の倫理と行動規範	社会福祉専門職の諸団体における倫理綱領等を通して求められる援助者の態度や理念について学ぶ。		0
15	まとめ	社会福祉の理念や制度についてまとめを行い、人間の地域生活や支えあうコミュニティのあり方を考える。		0

令和5年度

科目名	児童福祉特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	宇治　和子		
開講期	後期		
授業概要	戦後、戦災孤児などの問題を解決するためにスタートした児童福祉に関する社会的支援は、時代の移り変わりとともに求められるものが変化し、今やその内容は複雑かつ多岐にわたっています（児童虐待や少子化対策など）。この授業では、児童福祉の歴史的な流れをおさえながら、その時々で求められたものを検討しつつ、整えられた制度や機能、体制、実施状況などを理解していきます。そして今後、子どもたちにどのような支援が必要かを考えていきます。この授業は、子ども家庭福祉の現場で臨床心理士・公認心理師として実務経験のある教員が担当し、各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。		
達成目標	本授業は、以下2点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・児童福祉の歴史的変遷、現在の制度や機能、体制、実施状況、今後の課題などについて理解できる ・児童福祉領域で起こる諸問題を自分なりの視点で分析できる		
受講資格		**成績評価** **方法**	積極的な授業参加（10%）と、授業内課題やレポートの提出（90%）により評価します。
教科書	教科書は使わず、資料を配布します。		
参考書	授業の中で、随時紹介します。		
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。		
オフィスタイム	授業開始前・終了後・月曜3限・4限：宇治研究室（８３６）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	児童福祉とは	・この授業についてのオリエンテーションを行う ・児童福祉について概説する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
2	児童福祉の歴史	・孤児の問題について説明する ・孤児の育ちをどのように保障するかについてディスカッションを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
3	児童福祉法について	・子どもへの支援の変化、展開について説明する ・児童福祉法に基づく施設等について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
4	子どもの権利条約について	・子どもの人権、権利保障の重要性について、国内外の実例をあげながら説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
5	子ども虐待について１	・虐待の発見の歴史について説明する ・児童虐待防止法（制定当初の様子）について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
6	子ども虐待について２	・児童相談所の機能や役割について説明する ・家庭裁判所と親権の問題について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
7	子ども虐待について３	・虐待された子どもの傷つきを臨床心理学的に説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
8	子ども虐待について４	・児童虐待の実例を基に、この問題についてディスカッションを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
9	ドメスティック・バイオレンスについて	・DVの発見の歴史について説明する ・DV防止法とその支援について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
10	母子保健について	・母子保健法、乳幼児健康診査、子育て支援新制度と保育サービスについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
11	子育て支援について１	・現代社会と少子化対策について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
12	子育て支援について２	・多様化する家族（貧困・ひとり親・ステップファミリーなど）への支援について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
13	子育て支援について３	・多様化する家族（障害・難病など）への支援について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60
14	子どもへの支援１	・非行問題、児童自立支援施設の役割について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
15	子どもへの支援２	・若者の性をめぐる問題について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、それを読み知見を広げる	60

令和5年度

科目名	科学的衣生活特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
担当教員	瀬谷　真理子		
開講期	後期		
授業概要	快適な衣生活を営んでいくために、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を人文・社会・自然など相互に関連性を持たせながら総合科学的な視点で幅広く学ぶことにより、豊かな衣生活とはどのようにあるべきか理解する。衣生活における現代的課題を把握し、よりよい生活者としての視点を養う。生活を科学し、豊かな衣生活とは何かを考えることは、SDGsの目指す方向と重なるものがあり、暮らしを科学する視点で現代的課題を捉え、実践していく力を養う。また，福島県立高等学校での指導経験を活かして、衣生活分野における基礎的知識と衣生活全般における総合科学的な観点を育む。レポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、１級衣料管理士取得、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得 位置づけ・水準		
達成目標	１．被服の変遷を理解するとともに、被服の持つ機能・役割について理解し、快適な衣生活とはどうあるべきか考えることができる. ２．被服材料の性質について理解し、手入れや保管について理解できる。 ３．豊かな衣生活を営むためのあり方について、科学的な視点で考え理解を深めることができる。 単位認定の最低基準は、上記１～３の総合的な評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：		
受講資格	上記対象学生	成績評価 方法	①課題レポート・ノート/授業態度：４０％　②期末レポート/小テスト：６０％　として①から②の総合評価で６０％以上を合格とする。
教科書	随時、資料を準備して配付		
参考書	「ビジュアル衣生活論」建帛社「消費者の視点からの衣生活概論」菅井清美・諸岡晴美　編著　井上書院、「衣生活概論」矢部章彦ほか		
学生への要望	衣生活における現状と課題を考えながら受講し，授業内容を実生活に反映させること.		
オフィスタイム	被服学研究室　月曜日Ⅱ、Ⅲ限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス～被服着用目的と被服の機能～衣生活文化の変遷～	被服の着用目的と機能は、時代、社会、文化の変遷に伴いながら変化する。被服の起源や被服の着用目的の変遷を学び、現在の衣生活について問題点を抽出する。特に、被服着用の主要な３つの目的（①生理物理的、②心理的、③社会的）を文化的変化、価値観・意識の変化の視点から考察し、今後の衣生活を展望する。	本日の講義の復習をする。自分自身の衣生活における問題点を抽出し、次回発表の準備をする。	60
2	衣服のかたちの変遷１～西洋の服装史より～	衣服がどのように変遷してきたのか西洋の服装史から確認するとともに現代の服装とのつながりについて考察する。	西洋の服装史から関心のある衣服について取り上げ、レポートにまとめるとともに次回発表の準備をする。	60
3	衣服のかたちの変遷１～西洋の服装史より～	衣服がどのように変遷してきたのか西洋の服装史から確認するとともに現代の服装とのつながりについて考察する。	西洋の服装史から関心のある衣服について取り上げ、レポートにまとめるとともに次回発表の準備をする。	60
4	衣服の形の変遷３～和服の変遷～	日本における和服文化の特色と和服の変遷について理解を深めながら現代の服装とのつながりについて考察する。	日本における和服文化や服装史から関心のある衣服について取り上げ、レポートにまとめるとともに次回発表の準備をする。	60
5	装いと健康	着装するヒトとして快適性を捉えるには人体とそれに密着する衣服との関わり、さらに人体・衣服・環境の相互のつながりを把握し、考察する。	本日の講義の復習をする。また、課題を捉え考察してレポートにまとめる。	60
6	衣服の素材と加工・被服管理	被服を構成する素材（繊維、糸、布）の種類と特徴を、被服に必要な機能との関連で理解を深める。さらに、年々進歩している新機能素材の例や素材の染色と加工について、実物を観察しながら理解を深める。	本日の講義の復習をする。また、自分自身の被服の素材を確認し、課題を捉え考察してレポートにまとめる。	60
7	被服の管理・手入れ方法 （簡易実験）	被服に付着した汚れの除去方法について、素材・形、染色などの被洗物の特徴に応じた適切な方法を理解する。家庭およびクリーニング店での汚れの除去方法の特徴と違いや家庭洗濯に用いられる市販洗剤類の種類と特徴、使用方法、表示の見方などを調べ、生活者視点から問題点を抽出するとともにSDGsの視点でも課題を捉え考察する。また、簡易実験を実施して理解を深める.	本日の講義を復習する。自宅にある洗剤類や洗濯機の種類を調査確認する。また、市場調査の結果をレポートにまとめる。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	豊かな衣生活の構築に向けて～糸と織物の関係①～	簡易な織機を活用して、布の成り立ちについて、縦糸、横糸を確認しながら布を折る体験を行うことで、衣生活を豊かに彩ることに向けて理解を深める。	課題をレポートにまとめるとともに作品を完成させる。	60
9	豊かな衣生活の構築に向けて～糸と織物の関係②～	簡易な織機を活用して、布の成り立ちについて、縦糸、横糸を確認しながら布を折る体験を行うことで、衣生活を豊かに彩ることに向けて理解を深める。	課題をレポートにまとめるとともに作品を完成させる。	120
10	豊かな衣生活の構築～伝統文化の継承と創造①～	豊かな衣生活の構築のためには、日本古来からの伝統文化を認識するとともに継承に向けた取り組みが求められる。その一つとして、「染色」の文化を学び、体験により考察につなげる。	「伝統文化の継承と創造」をテーマに、レポートを作成するとともに作品を完成させる。	60
11	豊かな衣生活の構築～伝統文化の継承と創造②～	豊かな衣生活の構築のためには、日本古来からの伝統文化を認識するとともに継承に向けた取り組みが求められる。その一つとして、「染色」の文化を学び、体験から考察を行う。	「伝統文化の継承と創造」をテーマに、レポートを作成するとともに作品を完成させる。	60
12	豊かな衣生活の構築～伝統文化の継承と創造③～	豊かな衣生活の構築のためには、日本古来からの伝統文化を認識するとともに継承に向けた取り組みが求められる。その一つとして、「津軽こぎん刺し」の文化を学び、体験により考察につなげる。	「伝統文化の継承と創造」をテーマに、レポートを作成するとともに作品を完成させる。	60
13	豊かな衣生活の構築～伝統文化の継承と創造④～	豊かな衣生活の構築のためには、日本古来からの伝統文化を認識するとともに継承に向けた取り組みが求められる。その一つとして、「津軽こぎん刺し」の文化を学び、体験から考察を行う。	「伝統文化の継承と創造」をテーマに、レポートを作成するとともに作品を完成させる。	60
14	豊かな衣生活の構築～伝統文化の継承と創造⑤～	豊かな衣生活の構築のためには、日本古来からの伝統文化を認識するとともに継承に向けた取り組みが求められる。その一つとして、「津軽こぎん刺し」の文化を学び、体験から考察を行う。	「伝統文化の継承と創造」をテーマに、レポートを作成するとともに作品を完成させる。	120
15	まとめ	衣生活を巡る問題は、生活全般に共通する問題であること、生活者の視点での考察が重要であることを理解し、全体のまとめとしてのレポートを作成する。確認テストも加える。	本日の講義を復習するとともに確認テストでの振り返りを行う。	60

令和5年度

科目名	科学的衣生活演習	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子		
開講期	後期		
授業概要	豊かで快適な衣生活を営むために、ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を人文・社会・自然など相互に関連性を持たせながら総合科学的な視点で幅広く学ぶとともに実践的演習をとおして理解を深める。衣生活における現代的課題を把握し、よりよい生活者としての視点を養い、生活を科学し、豊かな衣生活とは何かを考えながら、暮らしを科学する視点で現代的課題を捉え実践していく力を養う。また，福島県立高等学校での指導経験を活かして、衣生活分野における基礎的知識と衣生活全般における総合科学的な観点を育む。レポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、１級衣料管理士取得、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得 位置づけ・水準		
達成目標	[到達目標] １．衣生活分野の学問領域について理解する。 ２．先行研究から課題を抽出し、衣生活の研究の理解と深化する。 ３．衣生活における研究テーマの選定方法を理解し、新たな学問探究ができるようにする。 単位認定の最低基準は、上記１～３の総合的な評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：		
受講資格	・特になし。 ・家庭科専修免許を取得希望する場合は必修。	**成績評価方法**	①授業態度 30%　②課題（発表、提出物）30%　③理解度（レポート、テストなど）40%　①~③の総合評価60点以上で合格とする。
教科書	授業毎に配布する。その配布資料に基づいて授業を進める。		
参考書	随時提示。		
学生への要望	日常生活の中で衣生活に興味や関心を持ち、探究心をもってより良い衣生活の提案ができるような学びとなるよう、積極的な姿勢で取り組むことを心掛けて欲しい。		
オフィスタイム	場所：家政学館４Ｆ被服学研究室　月曜日Ⅱ、Ⅲ限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本授業の概要及び演習内容の提示。	シラバスで授業内容を確認する	90
2	衣生活の歴史と学問領域	今日に至るまでの衣生活の変革と、学問領域について学ぶ。	近年の衣生活研究について調査する	90
3	衣生活（和服）の歴史①	衣生活を理解する上で重要な日本の和服の歴史を学び、現在の衣生活の問題を考える。	日本服装史を読む	90
4	衣生活（和服）の歴史②	衣生活を理解する上で重要な日本の和服の歴史を学び、現在の衣生活の問題を考える。	日本服装史を読む	90
5	衣生活（洋服）の歴史①	現在の衣生活を理解する上で洋装の変遷は重要である。西洋の歴史から日本への洋装の流れを学び、衣生活の問題を考える。	西洋服装史を読む	90
6	衣生活（洋服）の歴史②	現在の衣生活を理解する上で洋装の変遷は重要である。西洋の歴史から日本への洋装の流れを学び、衣生活の問題を考える。	西洋服装史を読む	90
7	研究の方法について	前回までの学修した内容をもとに、日本家政学会、日本服飾文化学会等の先行研究を理解し、衣生活分野での論文作成手法を理解する。	先行研究の調査方法を理解する	90
8	研究の方法について	先行研究調査からえられた研究の手法を取り入れて、衣生活をキーワードに発表を行う。 研究手法としての評価を討論する。	興味ある分野の先行研究を集め、発表原稿を作成する	90
9	研究の方法について	前回までの学修した内容をもとに、日本家政学会、日本服飾文化学会等の先行研究を理解し、衣生活分野での論文作成手法を理解し、関心のあるテーマについて調査する。	先行研究の調査方法を理解する	90
10	研究の方法について	調査した内容を整理して、考察するとともに発表に向けた準備を行う。	興味ある分野の先行研究を集め、発表原稿を作成する	90
11	衣生活の今日的なテーマと研究方法について	最新の衣生活の課題と研究の方法を学ぶ。	最新課題を抽出しまとめる	90
12	衣生活のこれからを考える	衣生活の果たす役割を考える。	衣生活の役割を理解する	90
13	研究への応用及び研究計画の作成方法	これまでの学修から、可能とされる研究内容を選出し、研究計画、計画の妥当性等評価する。また、研究計画の作成方法を学ぶ。	研究計画を立てる	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	まとめ（1）	これまでの演習で修得した内容を元に、レポートの制作に取り組む。	レポートの作成	90
15	まとめ（2）	レポートの提出内容確認。プレゼン及び討論。本講座の総括をおこなう。	レポートを作成し、総括としてのプレゼンを行えるよう準備する。	90

令和5年度

科目名	科学的衣生活実験	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択
担当教員	瀬谷　真理子		
開講期	前期		
授業概要	ヒトと被服、それを取り巻く環境との関連性を人文・社会・自然など相互に関連性を持たせながら総合科学的な視点で幅広く学ぶとともに実践的な学びをとおして理解を深める。衣生活における現代的課題を把握し、よりよい生活者としての視点を養い、生活を科学し、豊かな衣生活とは何かを考えながら、暮らしを科学する視点で現代的課題を捉え実践していく力を養う。また，福島県立高等学校での指導経験を活かして、衣生活分野における基礎的知識と衣生活全般における総合科学的な観点を育む。レポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。 実務経歴：福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、１級衣料管理士取得、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得 位置づけ：水準		
達成目標	[到達目標] １．衣生活分野の学問領域について理解する。 ２．先行研究から課題を抽出し、衣生活の研究の理解と深化する。 ３．衣生活における研究テーマの選定方法を理解し、新たな学問探究ができるようにする。 単位認定の最低基準は、上記１～３の総合的な評価が達成度７割以上であること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：		
受講資格	特になし	成績評価 方法	授業態度：３０点 期末レポート：70点
教科書	必要に応じた参考資料を配布する.		
参考書	日本家政学会誌，日本繊維製品消費科学会誌，ほか関連学会誌		
学生への要望	常日頃から，問題意識と探究心を持ち，関連論文を多数読み込み，質の良い論文を見分ける能力を養うこと.		
オフィスタイム	月曜日　2,3限目　被服学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本授業の概要を確認する。	本日の授業内容をまとめ，問題点をピックアップする.	60
2	学問領域について	衣生活の起源と変遷から、現在の衣生活を捉えるとともに衣生活に関する学問領域を確認する。	本日の授業内容をまとめ，問題点をピックアップする.	60
3	日本家政学会誌調査（1）	日本家政学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする．実験方法や実験結果，考察などを読み込み，実験研究のデザインや進め方を理解する.	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする.	60
4	日本家政学会誌調査（1）	日本家政学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする．実験方法や実験結果，考察などを読み込み，実験研究のデザインや進め方を理解する.	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする.	60
5	日本家政学会誌調査（2）	日本家政学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする．調査方法や調査結果，考察などを読み込み，調査研究のデザインや進め方を理解する.	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする.	60
6	日本家政学会誌調査（2）	日本家政学会誌に掲載されている論文を選択し，読み合わせをする．調査方法や調査結果，考察などを読み込み，調査研究のデザインや進め方を理解する.	選択した論文を再度読み，不明点などをピックアップする.	60
7	基礎実験からの確認と探究１～界面活性剤の働き～	基礎実験として、家庭科教育の中から教材を取り上げて、確認するとともに実験のストーリーを考え、指導計画を作成する。	指導計画の作成とプレゼンテーションに向けた準備	60
8	基礎実験からの確認と探究１～界面活性剤の働き～	基礎実験として、家庭科教育の中から教材を取り上げて、確認するとともに実験のストーリーを考え、指導計画を作成する。作成した指導案に基づいて、実験を行いプレゼンテーションする。	指導計画の作成とプレゼンテーションに向けた準備	60
9	基礎実験からの確認と探究２～漂白剤の性質と染み抜きの原理～	基礎実験として、家庭科教育の中から教材を取り上げて、確認するとともに実験のストーリーを考え、指導計画を作成する。	指導計画の作成とプレゼンテーションに向けた準備	60
10	基礎実験からの確認と探究２～漂白剤の性質と染み抜きの原理～	基礎実験として、家庭科教育の中から教材を取り上げて、確認するとともに実験のストーリーを考え、指導計画を作成する。作成した指導案に基づいて、実験を行いプレゼンテーションする。	指導計画の作成とプレゼンテーションに向けた準備	60
11	基礎実験からの確認と探究３～柔軟剤の働き～	基礎実験として、家庭科教育の中から教材を取り上げて、確認するとともに実験のストーリーを考え、指導計画を作成する。	指導計画の作成とプレゼンテーションに向けた準備	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	基礎実験からの確認と探究３～柔軟剤の働き～	基礎実験として、家庭科教育の中から教材を取り上げて、確認するとともに実験のストーリーを考え、指導計画を作成する。作成した指導案に基づいて、実験を行いプレゼンテーションする。	指導計画の作成とプレゼンテーションに向けた準備	60
13	繊維の性質と探究～羊毛フェルト～	テーマの選定をする.	テーマの選定を考える.	60
14	繊維の性質と探究～羊毛フェルト～	テーマの選定をする.	テーマの選定を考える.	60
15	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマの選定をする.	テーマの選定を考える.	60
16	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマにそった調査（実験）研究の企画デザインを作成する.	関連論文の文献調査を実施する.	60
17	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマの選定をする.	テーマの選定を考える.	60
18	調査（実験）研究のデザイン・進め方	テーマにそった調査（実験）研究の企画デザインを作成する.	関連論文の文献調査を実施する.	60
19	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し，結果を求める.	選択したテーマにそって調査研究を進める.	60
20	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し，結果を求める.	選択したテーマにそって調査研究を進める.	60
21	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し，結果を求める.	選択したテーマにそって調査研究を進める.	60
22	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し，結果を求める.	選択したテーマにそって調査研究を進める.	60
23	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し，結果を求める.	選択したテーマにそって調査研究を進める.	60
24	調査（実験）研究の推進	調査（研究）を実施し，結果を求める.	選択したテーマにそって調査研究を進める.	60
25	結果の考察	結果を解析し，考察する.	結果を考察し，原稿にまとめる.	60
26	結果の考察	結果を解析し，考察する.	結果を考察し，原稿にまとめる.	60
27	レポート作成	レポートを作成する.	結果を考察し，原稿にまとめる.	60
28	レポート作成	レポートを作成する.	結果を考察し，原稿にまとめる.	60
29	レポートの評価	論文を書くにあたり，引用文献の書き方や著作権について理解を深める	自分の論文をチェックし，問題点・課題を抽出する.	60
30	まとめ	授業内容を振り返り、確認する。	まとめのレポート作成	60

令和5年度

科目名	科学的食生活特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
担当教員	金子　依里香		
開講期	後期		
授業概要	大学の4年間は、管理栄養士、栄養教諭などの資格取得のためのカリキュラムに従って、「食生活の周辺」を「学び、理解して、覚える」ことであった。大学院修士課程においては、「学び、理解して、覚える」からさらに前進し、周知されているテキストレベルの情報を基礎として、日本人の食生活の特徴的な事がらを「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」や「The Washoku Way-Japan's Nuanced Approach to Food」で英文を購読する。併せて、必要に応じて各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解きながらディスカッションする。 【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。		
達成目標	各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解くことにより「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うこと、および、英文講読により日本の食生活を海外に伝える力を養うことを目標とする。 【単位認定方法の最低基準】授業内容の80％を理解していること。		
受講資格	大学院修士課程の学生	**成績評価方法**	①レポート80% ②英文講読20%
教科書	資料を配布する。		
参考書	「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」「The Washoku Way-Japan's Nuanced Approach to Food」		
学生への要望	①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。 ②食文化などにも関心を持ってください。 ③客観的な立場で考える力を身に付けてください。		
オフィスタイム	月曜日５時限目および木曜日２時限目（家政学館2階　生理学研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入：授業の目的	導入として、大学院修士課程においては、「学び、理解して、覚える」からさらに前進し、周知されているテキストレベルの情報を基礎として、各種学術雑誌等の論文や最新情報を読み解き、「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うことを目標とすることを理解する。	復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	30
2	「縄文時代」から「江戸時代」の食生活	「縄文時代」から「江戸時代」の食生活の概要を講義を行う。	予習：配布したテキストの事前学習をしてきてください。	60
3	「江戸時代」から「現在」の食生活および「日本の年中行事と行事食」について	「江戸時代」から「現在」の食生活までの概要を講義し、現代の食生活が抱える問題点について討論した。 「日本の年中行事と行事食」について講義を行う。	予習：配布したテキストの事前学習をしてきてください。	60
4	論文購読①	「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter3 The Formative Period of Japanese Dietary Culture “Annual Observances and Rites of Passage”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
5	論文購読②	前回に続き「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter3 The Formative Period of Japanese Dietary Culture “Annual Observances and Rites of Passage”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
6	論文購読③	前回に続き「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter3 The Formative Period of Japanese Dietary Culture “Annual Observances and Rites of Passage”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	世界・日本の食具と食事の作法、食事と宗教との関連	世界・日本の食具と食事の作法、食事と宗教との関連について講義する。	予習：配布したテキストの事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
8	論文購読④	「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter7 At the Table “Chopsticks and Table Manners”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
9	論文購読⑤	前回に続き「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter7 At the Table “Chopsticks and Table Manners”を講読し、討論した。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
10	論文購読⑥	前回に続き「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter7 At the Table “Chopsticks and Table Manners”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
11	日本の「だし」文化と味覚	東日本と西日本の「だし」の違いが生まれた歴史を学び、さらに味覚について生理学的に学び、理解を深める。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
12	論文購読⑦	「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter9 On the Menu “Soup and Umami Flavouring”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
13	論文購読⑧	前回に続き「THE HISTORY AND CULTURE OF JAPANESE FOOD」Chapter9 On the Menu “Soup and Umami Flavouring”を講読し、討論する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
14	論文購読⑨	農林水産省のホームページに掲載されている「The Washoku Way-Japan's Nuanced Approach to Food」を講読し、日本の食生活を海外に伝える力を養うため、日本の食生活について討論する。	予習：配布したテキストの事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
15	論文講読⑩およびまとめ	前回に続き、「The Washoku Way-Japan's Nuanced Approach to Food」を講読し、日本の食生活を海外に伝える力を養うため、日本の食生活について討論しまとめを行う。	予習：配布したテキストの事前学習をしてきてください。 2回～14回までの授業内容について確認し 自分の考えを整理してください。	60

令和5年度

科目名	科学的食生活演習	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	伊藤　央奈		
開講期	後期		
授業概要	健康に暮らすためには望ましい食生活が必須である。その望ましい食生活とは何か論文購読や疫学的な観点から解説する。また院生自らの食生活に関連した論文や雑誌を購読し、プレゼンテーションを行う能力を身に付ける。 【課題のフィードバック】：随時講義の時間内に行う。【位置づけ・水準】GH		
達成目標	・健康に暮らすための望ましい食生活について説明できる。 ・自らの食生活についての問題点を明らかにし、問題解決についてプレゼンテーションすることができる。 【単位認定の最低基準】：内容の７割は理解し、自らの食生活に応用することができる。 【ディプリマポリシーとの関係】		
受講資格	大学院修士課程　1年	**成績評価方法**	出席時間が開講時間の2/3以上で、授業の討議態度（20%）ならびにレポート（80%）で評価する。
教科書	分かりやすいEBNと栄養疫学　同文書院		
参考書	その都度紹介する。		
学生への要望	日頃、食物や栄養に関心を持つこと。		
オフィスタイム	月曜日Ⅴコマ目（16時10~17時）、水曜日Ⅳコマ目（NO1調理学研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	科学的根拠に基づいた栄養学に（EBN）ついて	科学的根拠に基づいた栄養学（EBN)について解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
2	栄養・健康情報とEBNについて	栄養・健康情報とEBNについて、情報の種類と価値の観点から解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
3	栄養疫学について	疫学研究の目的、方法について解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
4	疫学のための統計学	疫学研究に必要な統計学について解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
5	栄養疫学の実際について	栄養疫学について実践例を挙げて解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
6	疫学研究の読み方と進め方	論文の読み方や研究の進め方について解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
7	EBNの実例について	生活習慣病予防のEBNについて解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
8	疫学で理解する食事摂取基準	食事摂取基準を疫学的観点から解説する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
9	自らの食生活の課題の抽出①	自らの食生活の課題を挙げ、それらの課題解決のために文献を検索し、文献を講読する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
10	自らの食生活の課題解決①	課題解決のための方法をレポートにまとめる。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
11	自らの食生活の課題の抽出②	自らの食生活の課題を挙げ、それらの課題解決のために文献を検索し、文献を購読する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
12	自らの食生活の課題解決②	課題解決のための方法をレポートにまとめる。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
13	食生活に関連した発表①	食生活に関連したトピックスについて院生自らがプレゼンテーションを作成し発表する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
14	食生活に関連した発表②	食生活に関連したトピックスについて院生自らがプレゼンテーションを作成し発表する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20
15	食生活に関連した発表③	食生活に関連したトピックスについて院生自らがプレゼンテーションを作成し発表する。	最新の栄養や健康の情報を収集する。	20

令和5年度

科目名	科学的食生活実験	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択
担当教員	會田　久仁子		
開講期	前期		
授業概要	【授業概要】食物と人間生活の関わりについて、実験を通じて科学的に検討するための手法を学ぶ。なお、実験に当たっては既存の手法に捉われることなく、俯瞰的に日常の生活から食に関わる問題点を抽出することで、新しい手法への導き方をディスカッションしながら考えることを目的とする。 【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。		
達成目標	【達成目標】種々学術雑誌等の論文や最新情報を読み解くことにより、実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び、人間生活で起きている食に関する現象について身近なことに置き換えて簡単に再現・証明したり、科学的に「論ずる力」を養うことを目標とする。 【単位認定方法の最低基準】授業内容の80％を理解していること。		
受講資格	大学院修士課程の学生	成績評価 方法	①レポート80% ②英文講読20%
教科書	資料を配布する。		
参考書	必要に応じ授業内で案内する。		
学生への要望	①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。 ②行事食・家庭料理・食文化などにも関心を持ってください。 ③客観的な立場で考える力を身に付けてください。		
オフィスタイム	月曜日5コマおよび火曜日5コマ　栄養指導論研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	伝統食品の科学的検討①	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
2	伝統食品の科学的検討①	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
3	伝統食品の科学的検討②	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
4	伝統食品の科学的検討②	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理してください。	30
5	伝統食品の科学的検討③	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
6	伝統食品の科学的検討③	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
7	伝統食品の科学的検討④	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
8	伝統食品の科学的検討④	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
9	伝統食品の科学的検討⑤	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
10	伝統食品の科学的検討⑤	伝統食品を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
11	食物と人間生活の関わりの科学的検討①	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
12	食物と人間生活の関わりの科学的検討①	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	食物と人間生活の関わりの科学的検討②	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
14	食物と人間生活の関わりの科学的検討②	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
15	食物と人間生活の関わりの科学的検討③	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
16	食物と人間生活の関わりの科学的検討③	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
17	食物と人間生活の関わりの科学的検討④	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
18	食物と人間生活の関わりの科学的検討④	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
19	食物と人間生活の関わりの科学的検討⑤	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
20	食物と人間生活の関わりの科学的検討⑤	食物と人間生活の関わりを科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
21	食生活に関する最新情報の科学的検討①	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
22	食生活に関する最新情報の科学的検討①	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
23	食生活に関する最新情報の科学的検討②	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
24	食生活に関する最新情報の科学的検討②	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
25	食生活に関する最新情報の科学的検討③	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
26	食生活に関する最新情報の科学的検討③	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
27	食生活に関する最新情報の科学的検討④	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
28	食生活に関する最新情報の科学的検討④	食生活に関する最新情報を科学的に検討するための実験計画の立て方および進め方、実験結果から考察に導くまでのプロセスを学び討論する。	ノート整理をしてください。	30
29	授業のまとめ	この授業を通して、俯瞰的に日常の生活から食に関わる問題点について、実験を計画して進める方法、および実験結果から考察に導くまでのプロセスを学ぶことで、「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うことができたかどうか確認する。	予習：これまでの授業を振り返ってきてください。	30
30	授業のまとめ	この授業を通して、俯瞰的に日常の生活から食に関わる問題点について、実験を計画して進める方法、および実験結果から考察に導くまでのプロセスを学ぶことで、「食生活の功罪」を科学的側面から「論ずる力」を養うことができたかどうか確認する。	予習：これまでの授業を振り返ってきてください。	30

令和5年度

科目名	食品衛生学特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	澤渡　優喜		
開講期	後期		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 食品衛生学分野の中で食品微生物学の内容を講義します。特に、微生物制御の原理を理解してもらうことを授業の目的とします。 〔授業全体の内容の概要〕 本特論では「食品微生物学」の内容を扱います。基礎的な微生物学の内容を概説した後、微生物の殺菌、食品の腐敗・変敗とその防止方法、食品の品質管理で行う微生物検査方法について説明します。 〔実務経験に関する内容〕 食品企業で乳酸菌を利用した商品の研究開発を行っていました。食品企業での経験をもとに微生物制御について講義します。 〔課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法〕 課題を提出後、コメントや口頭等でフィードバックを行います。		
達成目標	食品の開発や品質管理の場面でも使える知識を修得していること。		
受講資格	なし	成績評価 方法	授業内での発言やレポート100点
教科書	食品の腐敗と微生物（幸書房）3,500円＋税		
参考書	改定 食品微生物学（建帛社）2,100円＋税又はエキスパート管理栄養士養成シリーズ6 微生物学（第3版）（化学同人）2,500円＋税		
学生への要望	教員が一方的に話をする授業ではなく、受講生にも発言をしてもらう授業です。教員と議論も行います。積極的に自分の考えを発言して下さい。		
オフィスタイム	月曜日；16:10～17:05（食品衛生学研究室） 火曜日；16:10～17:05（食品衛生学研究室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入	身近にある加工食品を題材に、なぜ、腐らないのか？について議論をします。	シラバスをよく読んで講義内容の全体をイメージして下さい。また、加工食品が腐らない理由について自分なりの考えをまとめておいて下さい。	120
2	微生物の基礎①　種類と性質	微生物を細菌類、真菌類（酵母、糸状菌）に分けて、種類と性質について概説します。	学部で習った左記内容を復習しておいて下さい。	120
3	微生物の基礎②　生理	微生物が必要とする栄養分と増殖条件について概説します。	学部で習った左記内容を復習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
4	食品と微生物	食品と微生物の関係を正しく理解するために、発酵、腐敗・酸敗および食中毒の違いを説明します。また、腐敗・酸敗について詳細に説明します。	教科書のp2～9を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
5	食品保蔵①　概論	食品保蔵の原理を説明します。また、実際の加工食品を例にしてハードル理論とバランス理論について説明します。	教科書のp152～155を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
6	食品保蔵②　低温保存	低温条件下での微生物の挙動についてついて説明します。また、低温保存の効果と注意点について説明します。	教科書のp156～162を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
7	食品保蔵③　包装	食品を包装後、真空、脱酸素、窒素置換又は二酸化炭素置換をした場合の微生物の増殖性について説明します。また、無菌包装食品の製造原理について説明します。	教科書のp163～170を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
8	食品保蔵④　加熱殺菌（１）	加熱殺菌の種類、加熱殺菌のメカニズム、商業的無機、加熱殺菌の効果および加熱殺菌の注意点について説明します。	教科書のp171～178を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
9	食品保蔵④　加熱殺菌（２）	加熱殺菌の理論につて説明ます。	教科書のp171～178を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
10	食品保蔵⑤　食品添加物	保存料および日持向上剤の静菌メカニズムについて、食品添加物使用の注意点について説明します。	教科書のp179～186を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
11	食品保蔵⑥　紫外線、電離放射線	紫外線および電離放射線を使用した食品の保蔵方法について説明します。	教科書のp187～191を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
12	食品保蔵⑦　超高圧、オゾン	超高圧およびオゾンを使用した食品の保蔵方法について説明します。	教科書のp191～196を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	食品における微生物の挙動① 乳・乳製品	乳・乳製品での腐敗・変敗や食中毒の事例、防止策および規格基準について説明します。	教科書のp53～62を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
14	食品における微生物の挙動② 弁当・惣菜・生めん類	弁当・惣菜・生めん類での腐敗・変敗や食中毒の事例、防止策および規格基準について説明します。	教科書のp89～93を予習しておいて下さい。また、授業内で課題も提示しますので実施して下さい。	120
15	食品微生物の検査方法	食品企業などで行われる一般的な微生物検査方法について説明します。	事前に示した内容を予習しておいて下さい。	60

令和5年度

科目名	調理科学特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 2単位 選択
担当教員	菊池　節子		
開講期	前期		
授業概要	「調理科学」は、食の分野を多角的に体系化を図る学問である。食品を選択する行為には、加工や調理に加えて、人間の心理や生理、生活や嗜好、その他多くの背景と動機があり、目的にあった的確な食品選択が求められている。ここでは、「調理科学」の中でも心理的要因が問われる「おいしさの科学」について論文や事例により読み解きながらディスカッションする。併せて、授業開始時（毎回10～15分程度）に食物や栄養についての英文を購読する。【課題に対するフィードバックの方法】 課題提出後、フィードバックの時間を設定し連絡します。		
達成目標	官能評価の事例を読み解くことにより、科学的側面から「おいしさ」について「論ずる力」を養うこと、および、英文購読により食物や栄養について外交人との「コミュニケーションツール」として活用できることを目標とする。【単位認定方法の最低基準】授業内容の80％を理解していること。		
受講資格	大学院 人間生活学研究科 修士課程専攻生	**成績評価方法**	英文購読（20点）とレポート（80点）で100点とします。
教科書	「調理と食品の官能評価」：松本仲子、建帛社 「PRACTICAL ENGLISH FOR DIETITIANS REVISED EDITION」：小川成子、山本厚子、LAURA NIHAN、学研書院(1,188円+税8%)		
参考書	必要に応じて授業内で案内する。		
学生への要望	①日々の生活の中で、常に食品に関心を持ってください。 ②食べ物を五感で味わう習慣をつけてください。 ③食品表示、食器、食空間、食文化などにも関心を持ってください。		
オフィスタイム	水曜日3時限および木曜日3時限の№1調理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の目的	食の業務に携わるためには、種々の食品についての深い知識と、食品の品質を見抜く技能が必要とされる。食品の評価法には、化学的、物理的評価法はもちろんのこと、官能的な評価法があることをまず理解する。「調理科学特論」では、調理や加工に留まることなく、食品の生産、流通、消費のシステムの中で、食品の品質を評価するためのいくつかの方法を解説する。	復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	30
2	事例①：高齢者向けの商品開発と官能評価	高齢者向けの食品開発に当たっては、高齢者の摂食機能を考慮する必要がある。ここでは、口腔の形態と食塊の移動のメカニズムを確認し、高齢者の摂食中の問題点、唾液の性状および食肉の硬さと咀嚼の関係から若年者と高齢者の違いを理解する。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
3	事例②：コンビニ等向けの商品開発と官能評価	コンビニおよびチェーンストアの店頭に並ぶ弁当、おにぎり、惣菜などは2000種類にも及ぶといわれている。他社との差別化を図った多くの新商品を生み出すために、官能評価は不可欠な手法であることを理解する。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
4	事例③：飲料を評価する「のどごし感」の測定方法と官能検査	「のどごし感」は、ビール類の嗜好性と高い相関があるといわれている。ここでは、咽頭部表面筋電図周波数解析を用いた「のどごし感」の測定方法の概要を理解する。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
5	事例④：「味の素」の商品開発と官能評価	「味の素」は日本人が発見した「うま味」によって、この100年間マーケットを世界中の100か国以上に広められ、グローバルな商品となった。官能評価の手法をいち早く実践して商品開発を行ってきた味の素株式会社のたゆまぬ努力を理解する。	予習：テキストの事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
6	論文購読①	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください 。	60
7	英文購読①	食物や栄養に関する英文購読をする。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
8	論文購読②　。	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください 。	60
9	英文購読②	食物や栄養に関する英文を購読する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
10	論文購読③	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください 。	60
11	英文購読③	食物や栄養に関する英文を購読する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
12	論文購読④	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
13	英文購読④	食物や栄養に関する英文を購読する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
14	論文購読⑤	最近の商品開発と官能評価の事例を学術雑誌等からいくつか取り上げ解説する。	予習：配布した論文の事前学習をしてきてください。 復習：授業内容について自分の考えを整理してください。	60
15	授業の総括	2回から14回の授業内容について討論を行う。	予習：1回目から14回目までの授業内容を確認してきてください。 復習：1回目から15回目までの授業内容について自分の考えを整理してください。	60

令和5年度

科目名	臨床栄養学特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	大西　弘太郎		
開講期	前期		
授業概要	生活習慣病の成因・治療・予防について栄養学の立場から分析・理解する。とくに心血管疾患に重点をおく。 国際誌に掲載されたインパクトの高い英語論文を輪読する。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに輪読会を行う。 実務経験：医師として医療機関に勤務している。 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけでなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。 位置づけ・水準 GU1120		
達成目標	単位認定の最低基準：英語原著論文の大意を理解できるようになること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：		
受講資格	大学院修士課程1年	成績評価 方法	小テスト　(20%) レポート　(80%)
教科書	特になし		
参考書	特になし		
学生への要望	英語論文の輪読を行う。基礎となる英文医学用語の習得に努めること。		
オフィスタイム	臨床医学研究室 火曜日　13:00～17:00。 木曜日　13:00～14:30。 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	非感染性疾患とその予防	平均寿命と健康寿命 人口動態の変遷 非感染性疾患(NCD)の概念と位置づけ 高血圧とその予防 高血圧と栄養学	健康寿命、疾病構造、生活習慣病などについて予習・復習をしましょう。	120
2	英文講読 1	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120
3	英文講読 2	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120
4	英文講読 3	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31. Christensen K, et al.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120
5	英文講読 4	Miura K(, Nagai M, Ohkubo T. Epidemiology of hypertension in Japan: where are we now? Circ J. 2013;77:2226-31. Christensen K, et al.	日本における高血圧症の位置付けについて予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	英文講読５	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
7	英文講読６	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
8	英文講読７	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
9	英文講読８	He FJ, Li J, Macgregor GA. Effect of longer term modest salt reduction on blood pressure: Cochrane systematic review and meta-analysis of randomised trials. BMJ. 2013;346:f1325.	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性、特に減塩について予習・復習をしましょう。	120
10	英文講読９	Kanauchi M, Kanauchi K. Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with untreated hypertension. BMJ Open. 2015;5:e008404.	高血圧症の治療における食事療法の重要性、特にダイエットを続けられるコツについて予習・復習をしましょう。	120
11	英文講読１０	Kanauchi M, Kanauchi K. Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with untreated hypertension. BMJ Open. 2015;5:e008404.	高血圧症の治療における食事療法の重要性、特にダイエットを続けられるコツについて予習・復習をしましょう。	120

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
12	英文講読１１	Kanauchi M, Kanauchi K. Diet quality and adherence to a healthy diet in Japanese male workers with untreated hypertension. BMJ Open. 2015;5:e008404.	高血圧症の治療における食事療法の重要性、特にダイエットを続けられるコツについて予習・復習をしましょう。	120
13	英文講読１２	注目されている最新の研究、論文未定	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性について予習・復習をしましょう。	120
14	英文講読１３	注目されている最新の研究、論文未定	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性について予習・復習をしましょう。	120
15	まとめ	総合討論 レポート提出	高血圧症の予防・治療における食事療法の重要性について予習・復習をしましょう。	120

令和5年度

科目名	栄養教育特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	岡部　聡子		
開講期	前期		
授業概要	栄養教育に関する論文作成の方法論を修得する。論文については、添削し、コメント等によるフィードバックを行う。		
達成目標	栄養教育に関する論文作成の方法論を理解できるようになる。 単位認定の最低基準は、「論文作成の方法論を7割理解していること。」および「ディプロマポリシーとの関係：課題探求力、創造的思考力」		
受講資格	修士課程 1 年生	**成績評価** **方法**	文献検索と英語論文翻訳：60点 論文作成　：40点
教科書	佐々木敏著、「栄養データはこう読む！」、女子栄養大学出版		
参考書	Pub Med 、google scholar で検索した論文		
学生への要望	積極的に授業に臨むこと。		
オフィスタイム	水曜日1.2コマ 食生活研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	授業の進め方や評価方法の説明	講義の内容をまとめる	120
2	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	研究テーマについて考える。	研究テーマについて調べる	180
3	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	文献・資料を集め読みこむ。	文献・資料を読む	180
4	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	文献・資料を集め読みこむ。	文献・資料を読む	180
5	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	調査方法を学ぶ。	講義の内容をまとめる	120
6	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	アンケート調査表を作成する。	アンケート調査票を作成する	120
7	文献・資料を集め読みこむ。	アンケート調査を行う。	アンケート調査の準備	120
8	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	アンケート調査結果の集計を行う。	アンケート調査の集計	180
9	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	統計処理について学ぶ。	講義の内容をまとめる	120
10	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	統計処理を行う。	講義の内容をまとめる	120
11	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	論文の書き方を学び、文章をまとめる。	論文を書く	600
12	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	論文の書き方を学び、文章をまとめる。	論文を書く	600
13	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	論文の書き方を学び、文章をまとめる。	論文を書く	300
14	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	プレゼンテーションの方法について学ぶ。	資料を作る	120
15	栄養教育に関する論文作成の方法論を学ぶ	プレゼンテーション	プレゼンテーションの評価を行う	120

令和5年度

科目名	数理・データサイエンス特別演習	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 1単位 選択
担当教員	石原　正道		
開講期	後期		

授業概要	本授業は、データ駆動型社会において必要な数理・データサイエンスの知識を学ぶことを目的とする。本授業では、データの重要性、ビジネスへの応用、倫理的課題、市場・医療・教育などの応用事例について学び、統計処理として仮説検定や回帰分析を学ぶ。また統計処理のためにPython の基礎的な知識を学ぶ。 フィードバックとして、提出物等における問題点等に対して具体的な指摘をする。 実務経験（佐々木）：岡崎信用金庫、そして株式会社F-Powerに勤務し、リスク管理や経営企画担当者として情報処理の実務経験をもつ教員が、共同で授業を担当します。		
達成目標	下記の点を本授業での達成目標とする。 – データ駆動型社会におけるデータの重要性、ビジネスへの応用、倫理的課題、市場・医療・教育などの応用事例を理解する。 – 統計処理の基本的な概念（基本統計量、分布、確率、標本調査など）を理解し、仮説検定（仮説の設定、t 検定、p 値など）を行うことができる。 – Python の基礎的な知識を習得し、データ分析ライブラリを使って、データの操作や可視化を行うことができる。 – 回帰分析・時系列データ解析・分類問題について理解し、Python を用いて分析を行うことができる。 – 統計処理・データ分析のレポートを書くことができる。 単位認定の最低基準：内容の7割を理解していること		
受講資格	受講資格は設けないが、本科目では基本的な数学に関する事項（指数関数、ガウス分布、Σ の記号による演算、行列の基礎的事項）については理解しているものとする。	成績評価 方法	統計処理のレポートとPython のプログラムの提出による。成績はレポート内容で80%、プログラムで20%を評価する。
教科書	必要な資料を配布もしくは配信する。		
参考書	多くの書籍があるので自分にあったものを参照すること。		
学生への要望	受講資格に記載した数学に関する事項を事前に学修すること。		
オフィスタイム	石原： 月曜日16:20-17:05, 家政学館4 階情報処理教育研究室 水曜日14:40-16:10, 家政学館4 階情報処理教育研究室 他の時間でも構わないが、アポイントメントがあると確実に対応できる。 アポイントメント用連絡先m isihar@koriyama-kgc.ac.jp 佐々木： 研究室：芸術館2階 No.3地域創成学科研究室 オフィスアワー：月・火曜日のII限とIII限、木曜日のI限とII限 連絡先：t.sasaki@koriyama-kgc.ac.jp		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	科目の説明、シラバスの説明、授業の目的、評価方法などを説明する。	Pythonの基本的な資料を確認すること。	60
2	データ駆動型社会	データの重要性、ビジネスへの応用、倫理的課題、市場・医療・教育などの応用事例について外観する。	授業で示された事例以外の応用事例をさがしてみること。	30
3	Python 入門	Python の基本的な文法、データ型、制御構文、関数、モジュールなどについて学ぶ。	授業で学んだ文法に基づき、簡単なプログラムを作成して実行すること。	90
4	Python データ分析入門	科学計算で用いられるNumPy、Pandas、Matplotlib などについて学ぶ。	Numpy, Pandas, Matplotlib を用いた操作を行ってみること。	90
5	統計処理	基本統計量、分布、確率、標本調査など、統計処理で必要となる基礎事項について学修する。	母平均と標本平均、不偏分散と標本分散の比較を行ってみること。	30
6	仮説検定	仮説検定における基礎事項である仮説の設定やp 値などを学ぶ。また仮説検定で用いるt 検定などを理解する。	具体例により仮説検定を行う際の手続きを確認すること。	60
7	Python を用いた仮説検定	Python のライブラリを用いて仮説検定を行う。	授業までに前回の内容を復習しておくこと。	90
8	回帰分析	単回帰、多重回帰、回帰係数、決定係数などについて学ぶ。	単回帰と多重回帰の違いを確認し、回帰分析の実施手順を確認すること。	30
9	Python を用いた回帰分析	Python のライブラリを用いて回帰分析を行う。	授業までに前回の内容を復習しておくこと。	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	時系列データ解析	時系列データの解析で用いられる解析方法（トレンドなど）を学ぶ。	移動平均などの考え方を復習すること。	30
11	Python を用いた時系列データ解析	Python のライブラリを用いて時系列データの解析を行う。	授業までに前回の内容を復習しておくこと。	90
12	分類問題	分類問題で用いられる解析方法（ロジスティック回帰など）を学ぶ。	分類問題で用いる各方法の特徴を確認すること。	30
13	Python を用いた分類問題	Python のライブラリを用いて分類問題を扱う。	授業までに前回の内容を復習しておくこと。	90
14	クラスタリング	データを集団にまとめるために用いるクラスタリングについて学ぶ。	クラスタリングで用いる各方法の特徴を確認すること。	30
15	Python を用いたクラスタリング	Python のライブラリを用いてクラスタリングを行う。	授業までに前回の内容を復習しておくこと。	90

令和5年度

科目名	食物栄養学特別講義Ⅰ	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択
担当教員	會田　久仁子		
開講期	前期		
授業概要	食物・栄養の分野で、最近発展を遂げ、あるいは注目を集めているテーマについて、講義する。文献・論文を読み解き、理解する。知り得た新しい知見はレポートにまとめ、プレゼンテーションする。プレゼンテーション内容については、その場で質疑応答指導により相互に確認してフィードバックし、より理解を深める。		
達成目標	食物・栄養の分野で、最近発展を遂げ、あるいは注目を集めているテーマについて、考察し理解を深める。授業内容の80％以上の理解を求める。		
受講資格	修士課程	**成績評価** **方法**	レポート80% プレゼンテーション20%
教科書	特に使用しない。配付資料を用いる。		
参考書	特に使用しないが、随時紹介する。		
学生への要望	常に世の中の動きに関心を持ち、特に食・栄養・健康に関して、その関連分野について自ら追求し、深く学ぶ姿勢を身に付けてください。		
オフィスタイム	月曜日5コマおよび火曜日5コマ　栄養指導論研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	これからの授業内容、どのようなテーマについて深く掘り下げるのかを検討する。	次回の授業に向け、文献・論文を読み込んでください。	30
2	食に関するテーマから学ぶ①	食に関するテーマから、読み込む文献・論文を決める。	次回の授業に向け、文献・論文を読み込んでください。	30
3	食に関するテーマから学ぶ②	食に関する文献・論文を読み込み、まとめる。	次回の授業に向け、まとめてください。	30
4	食に関するテーマから学ぶ③	読み込んだ文献・論文から得た新しい知見を発表する。	発表内容を見返してください。	30
5	栄養に関するテーマから学ぶ①	栄養に関するテーマから、読み込む文献・論文を決める。	次回の授業に向け、文献・論文を読み込んでください。	30
6	栄養に関するテーマから学ぶ②	栄養に関する文献・論文を読み込み、まとめる。	次回の授業に向け、まとめてください。	30
7	栄養に関するテーマから学ぶ③	読み込んだ文献・論文から得た新しい知見を発表する。	発表内容を見返してください。	30
8	健康に関するテーマから学ぶ①	健康に関するテーマから、読み込む文献・論文を決める。	次回の授業に向け、文献・論文を読み込んでください。	30
9	健康に関するテーマから学ぶ②	健康に関する文献・論文を読み込み、まとめる。	次回の授業に向け、まとめてください。	30
10	健康に関するテーマから学ぶ③	読み込んだ文献・論文から得た新しい知見を発表する。	発表内容を見返してください。	30
11	老いに関するテーマから学ぶ①	老いに関するテーマから、読み込む文献・論文を決める。	次回の授業に向け、文献・論文を読み込んでください。	30
12	老いに関するテーマから学ぶ②	老いに関する文献・論文を読み込み、まとめる。	次回の授業に向け、まとめてください。	30
13	老いに関するテーマから学ぶ③	読み込んだ文献・論文から得た新しい知見を発表する。	発表内容を見返してください。	30
14	歯に関するテーマから学ぶ①	歯に関するテーマから、読み込む文献・論文を決める。	次回の授業に向け、文献・論文を読み込んで次回の授業に向け、まとめてください。	30
15	歯に関するテーマから学ぶ②	歯に関する文献・論文を読み込み、まとめる。	発表内容を見返してください。	30

令和5年度

科目名	科学的住生活特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 必修
担当教員	山形　敏明		
開講期	前期		
授業概要	住生活に時間の概念や動線計画，機能分類等の科学的分析法が導入されたのは，戦後のことです。その主目的は，女性の家事労働軽減にありましたが，今日，家庭電化製品等により，家事に要する時間は大幅に短縮されました。一方，この戦後の大きな目的がごく短期間に達せられたために，住生活の科学的分析法は不十分のまま，という好ましくない結果をもたらしました。 　これからの住生活は，住まいが社会における原点，という普遍性を踏まえた上で，医学や環境学，色彩学等のあらゆる学問と有機的に連携しながら向上させなければなりません。本講義は，住生活における科学的分析法の成り立ち，及び次代に要求される手法を学ぶことを目的とします。 レポートはコメントによるフィードバックを行います。		
達成目標	単位認定最低基準：「授業内容を７割理解し、住生活における科学的分析法の成り立ちの理解し，研究内容に適した分析手法を利用できるようになること」。		
受講資格	修士課程1年	**成績評価** **方法**	レポート70%，プレゼンテーション30%
教科書	適宜プリント及び資料配付		
参考書	「今和次郎と現考学」河出書房新社 「ﾀﾞｲﾆﾝｸﾞｷｯﾁﾝはこうして誕生した」技報堂出版		
学生への要望	新聞等のニュースから，現代の住生活及び住まいにおける問題点を考えて下さい。		
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20・14:30～16:00 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義のガイダンス	今後の講義の目的や内容について説明します。	授業内容について復習	60
2	住居論についての考察	わが国の戦後の住まいを方向付けた既往研究（今和次郎や西山夘三他）について，考察します。同時にこれらが，科学的検証に基づいて行われたものであることを確認します。	授業内容について復習	60
3	住まい計画における空間比	住宅のモデュールについて理解した上で，住まいにおける各室（各機能）がどのような構成（面積）比で成り立っているか，過去の論と照らしながら考えます。	授業内容について復習	60
4	空間分析	まず，空間分析の目的を学びます。次に，空間分析を行う場合，研究の視点をどこに置くか，視点の相違による分析方法の違いについて，事例を用いて考えます。さらに，住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し，空間分析の手法を実際に学びます。	レポート準備	60
5	空間分析の手法Ⅰ	前講義に引き続き，住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し，空間分析の手法を実際に学びます。	レポート準備	60
6	空間分析の手法Ⅱ	前講義に引き続き，住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し，空間分析の手法を実際に学びます。	授業内容について復習	60
7	空間分析の手法Ⅲ	前講義に引き続き，住宅雑誌等から幾つかの事例を選択調査し，空間分析の手法を実際に学びます。これらをデータとしてまとめ，レポートを作成します。	授業内容について復習	60
8	子ども室の在り方Ⅰ	戦後の住まいにおいて，最も力点が置かれた空間として子ども室があげられます。しかし，近年，幾つかの事件から問題点が指摘されています。本講義では，問題の根底を考えながら，年齢，色彩，発達心理，空間構成，空間認知等の多方面からその在り方を考察します。	授業内容について復習	60
9	子ども室の在り方Ⅱ	前講義に引き続き，子どもの年齢，色彩，発達心理，空間構成，空間認知等の多方面から子ども室の在り方を考察します。	授業内容について復習	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	夫婦室の在り方	戦後の住まいにおいて，力点が置かれた子ども室に比し，夫婦室は軽視されがちでした。本講義では，その重要性について考察します。また，住まいに対する意識は，男女によって著しく異なる，とされていますが，住宅設計及びジェンダーフリーの視点から，男女双方にとっての住まいの理想について考えます。	授業内容について復習	60
11	台所の行方	戦後の台所は食物調達のみの機能から，食事空間の一体化という発展を遂げてきましたが，近年は生活の変化から，両者（食物調達，食事）の機能とも消滅する傾向が報告されています。このことは，現在の生活のみならず人間生活の歴史において，大きな問題であるといえます。これらのことを踏まえて，今後の台所について考察します。	レポート準備	60
12	住宅調査におけるアンケート作成Ⅰ	住宅調査におけるさまざまなアンケート調査について学び，実際に目的別にアンケートを作成します。	授業内容について復習	60
13	住宅調査におけるアンケート作成Ⅱ	前講義に引き続き，住宅調査におけるさまざまなアンケート調査について学び，実際に目的別にアンケートを作成します。	授業内容について復習	60
14	住宅調査におけるアンケート集計	前講義で作成したアンケートの集計を通して，住宅調査における集計方法及び統計について学びます。	レポート準備	60
15	まとめ	これまでの講義を総括します。	レポート準備	60

令和5年度

科目名	科学的住生活演習	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	山形　敏明		
開講期	後期		
授業概要	本演習では、科学的住生活特論で修得した住生活における科学的分析法と次代に即した手法を演習する。事例を通し住生活における今日の問題点及びその背景を探り、それらの解決法をゼミ形式で討論しながら多角的に追求する。レポートは返却ぜず、コメントによるフィードバックを行います。		
達成目標	本演習で修得した手法を十分理解するとともに活用できるようになること。また、その結果を空間表現または図式化する事ができるようになること。 単位認定最低基準：「内容の8割について理解していること」 ディプロマポリシーとの関係：「生活についての総合的な視野」「広い分野の知識」「問題に対する解決策を示す」		
受講資格	修士課程1年	**成績評価** **方法**	定期的に課すレポートの評価60%、講義への事前学習と討論内容についての評価40%
教科書	使用しない。		
参考書	適宜、紹介する。		
学生への要望	関連の手法を用いた既往論文について十分な予習を行うこと。		
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:20～16:00 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本演習の進め方及び概論を講義し、導引とする。	課題に取り組む	60
2	分析手法の検証（1）	日本建築学会等の文献を基に、科学的住生活特論で学修した科学的分析手法の複数の実例を概観する。	課題に取り組む	60
3	分析手法の検証（2）	（1）での実例について継続して分析する。	課題に取り組む	60
4	分析手法の検証（3）	（1）（2）で得た知見について討論する。	レポート準備	90
5	分析手法の検証（4）	レポートについてのプレゼンテーションを行う。	レポート準備	90
6	分析手法の研究への応用	各自の研究概要についてプレゼンテーションし、2～5回までの講義の中で修得した分析手法をそれらの研究内容に応用することが可能であるか討論する。	課題に取り組む	60
7	分析手法に基づく研究計画の検討	可能とされる分析手法を用いて研究計画を検討し、計画の妥当性を評価する。	課題に取り組む	60
8	住生活における建築防災上の問題点	今日的住生活における建築防災上の問題点について討論する。	課題に取り組む	60
9	住生活における建築防災上の対策	前講義で討論された問題点について、その対策の実情と社会学的背景を踏まえて検討されるべき対策について考察する。	課題に取り組む	60
10	住生活における安全のための人間工学（1）	住生活における安全について人間工学的視点から検証する。人間の防災力と群集密度、過緊張と情報処理について科学的分析を試みる。	課題に取り組む	60
11	住生活における安全のための人間工学（2）	安全性能の評価について、イメージ評価、被害想定評価及び線形関数評価の問題演習を行う。	レポート準備	60
12	避難計画における行動特性	危急時における人間の行動特性について解析し、避難計画の考え方について討論する。	レポート準備	60
13	避難流動の解析	避難行動を予測する避難計算の問題演習を行う。	課題に取り組む	60
14	住宅設計の留意点	これまでの講義で修得した内容を元に、住宅設計上の留意点について整理検討する。	課題に取り組む	90
15	まとめ	各自レポートのプレゼンテーションを行う。 本講座の総括をする。	課題に取り組む	90

令和5年度

科目名	科学的住生活実験	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択
担当教員	長田　城治		
開講期	前期		
授業概要	本授業は、科学的住生活特論および科学的住生活実験で習得した住生活における科学的な分析方法を用い、住生活に関する各種実験・実習を行うことで実証的に住生活を理解する授業です。 自身が考える快適な住生活や居心地の良い住まいはどのようなものかを明確にし、住まいに対する利用者の心情を科学的に数値化し、解決する方策を実験を通して学修します。 最終授業で全体に対するフィードバックを行い、各種実験課題については、授業内で解説して返却します。		
達成目標	①実験の準備や結果の考察をまとめることができたか。 ②安全に実験を行うことが出来たか。 ③快適な住生活や居心地の良い住まいを数値化できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割を理解していること。		
受講資格	修士課程2年	**成績評価** **方法**	①各種実験・実習に関するレポート（80%） ②実験ノートの最終提出物（20%）
教科書	特になし。 必要に応じてプリントを配布。		
参考書	必要に応じてプリントを配布。		
学生への要望	安全に実験を行い、レポートを必ず期日までに提出すること。 自身の住生活に関する不満や問題点を把握し、それらを改善するための方策を考えること。		
オフィスタイム	月曜日9:10～10:30 木曜日9:10～10:30 本館4F No.2 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	本授業の目的や実験・実習の概要について学びます。	授業内容の復習	60
2	【実験1】騒音レベルの調査・実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
3	【実験1】騒音レベルの調査・実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
4	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学内の騒音レベルを測定する。	実験結果の考察	60
5	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学外の騒音レベルを測定する。	実験結果の考察	60
6	【実験1】騒音レベルの調査・実験	騒音計を用いて、学外の騒音レベルを測定する。	実験結果の考察	60
7	【実験1】騒音レベルの調査・実験	調査・実験結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
8	【実験1】騒音レベルの調査・実験	調査・実験結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
9	【実験２】室内の温熱環境実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
10	【実験２】室内の温熱環境実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
11	【実験２】室内の温熱環境実験	夏涼しい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
12	【実験２】室内の温熱環境実験	夏涼しい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
13	【実験２】室内の温熱環境実験	冬暖かい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
14	【実験２】室内の温熱環境実験	冬暖かい住宅に関する工夫を住宅模型を用いて実験する。	実験結果の考察	60
15	【実験２】室内の温熱環境実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験ノートをまとめる	120
16	【実験２】室内の温熱環境実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験ノートをまとめる	120
17	【実験３】室内換気量実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
18	【実験３】室内換気量実験	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
19	【実験３】室内換気量実験	室内換気について住宅模型を用いて実験する。 換気方式の種類ごとに測定し、空気の流れや換気量計算を行う。	実験結果の考察	60
20	【実験３】室内換気量実験	室内換気について住宅模型を用いて実験する。 換気方式の種類ごとに測定し、空気の流れや換気量計算を行う。	実験結果の考察	60
21	【実験３】室内換気量実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験ノートをまとめる	120
22	【実験３】室内換気量実験	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験ノートをまとめる	120
23	【実験４】室内照度調査	調査・実験結果を基に、快適な住宅環境を確保するために必要な手段を考察する	実験シートの作成	60
24	【実験４】室内照度調査	機器の操作方法の習得、実験シートの作成、仮説に基づく実験結果を予想する。	実験シートの作成	60
25	【実験４】室内照度調査	照度計を用いて教室環境の明るさを評価する。	実験結果の考察	60
26	【実験４】室内照度調査	照度計を用いて教室環境の明るさを評価する。	実験結果の考察	60
27	【実験４】室内照度調査	調査結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
28	【実験４】室内照度調査	調査結果を基に、快適な教室環境を確保するために必要な手段を考察する。	実験ノートをまとめる	120
29	まとめ	各種調査・実験で得られた成果を考察し、快適な住環境および居心地の良い住まいを提案する。	全ての実験ノートを見返して復習する	120
30	まとめ	各種調査・実験で得られた成果を考察し、快適な住環境および居心地の良い住まいを提案する。	全ての実験ノートを見返して復習する	120

令和5年度

科目名	生活環境特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	影山　志保		
開講期	前期		
授業概要	生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。 この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。 それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査試料に基づき、その対策を考察する。 対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。 これら病原による発症機構についても学び、生活環境の評価方法を検討して行くことを目的とする。		
達成目標	生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。 この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。 それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査試料に基づき、その対策を考察する。 対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。 これら病原による発症機構についても学び、生活環境の評価方法を検討して行くことを目的とする。		
受講資格	大学院修士課程の学生	成績評価 方法	授業における「気づき」「探究心」「説明力」とレポートによる最終試験 ①レポート100点
教科書	特になし ただし、資料や原著の活用		
参考書	特になし		
学生への要望	人間は環境からのストレスに影響を受けやすい集団が存在する。具体的には発達段階の子供であったり、高齢者、疾病の罹患者などである。 幼児教育・栄養士・福祉士等はこれら免疫弱者を対象とする職能である。いわば環境因子に影響を受けやすい人間集団の特性を科学的に理解しておく必要がある。 環境因子や疾病については学生の希望を考慮する。		
オフィスタイム	月から金　5コマ目　食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	この科目を受講した理由と学びたい分野について説明していただく。 テーマを個人的に設定する。テーマは病原菌(B)と毒性物質(C)を各１つ設定する。 授業計画を立てる。 資料や原著を検討するために図書館を調査する。	自身の興味がある分野について、書籍、文献調査を行う。	60
2	テーマ(B)の基礎知識- 1	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 テーマに関する概要：歴史経緯、危害	引き続き興味のある問題について、書籍、文献調査を行う。	60
3	テーマ(B)の基礎知識- 2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路	興味のある問題について基礎知識をまとめ、講義で説明（発表）を行う。	60
4	テーマ(B)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：病気の自然史など	興味のある問題について、最新の情報をまとめ、どんなことが問題なのかについて調べる。	60
5	テーマ(B)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：検出方法や毒性機構	興味のある問題について、その問題を調べるための方法を調べ考える。	60
6	テーマ(B)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：生体の反応	興味のある問題について、実験を進めるための具体的手法をノートにまとめる。	60
7	テーマ(C)の基礎知識- 1	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 テーマに関する概要：歴史経緯、危害	興味のある問題について実際に実験を行った結果をまとめる。	60
8	テーマ(C)の基礎知識-2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路	実験結果を数値を解釈し、図表にまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	テーマ(C)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：病気の自然史など	結果の数値の示す意味について考える。	60
10	テーマ(C)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：検出方法や毒性機構	結果から言えることを考え、文献によって裏付けする。	60
11	テーマ(C)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：生体の反応	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
12	生活環境中の危害因子の分析方法と曝露条件	仮説に基づいた病原因子と疾病で、危害因子の分析方法と曝露状況に関する報告を調べる。 論文の要旨や実験データをまとめて、疾病の原因としての仮説を立てる。	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
13	危害因子の感染経路と生体内挙動と排泄経路	危害因子の曝露条件だけでなく、感染経路、生体内挙動や排泄経路など疾病の症状を説明しているか調べる。 罹患者の地域的分布などが危害因子の挙動に一致しているか検討する。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
14	危害因子による発病機構	発病機構に関する報告を調査する。その発病機構を傷害すると疾病が抑制されるか検討した報告を調査する。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
15	生活環境中の危害因子の除去方法	生活環境中の危害因子の除去する事によって、疾病が抑制されることを確認して、危害因子の環境中での閾値を調べる。その基準値が定められた場所で、その疾病の発生頻度が抑制されているか検討する。	発表終了後、プレゼンテーション内容について討論した点を修正しまとめなおす。	60

令和5年度

科目名	生活環境実験	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 1単位 選択
担当教員	影山　志保		
開講期	前期		
授業概要	生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。 この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。 それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査試料に基づき、その対策を考察する。 対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。 これら病原による発症機構についても学び、生活環境の評価方法を検討して行くことを目的とする。		
達成目標	生活習慣病が国民の健康に重要な問題となってきた。国民の死亡率一位は悪性新生物であり、部位別では肺の疾患が高齢者の直接の死亡原因になっている。 この講義では、健康日本21で問題となる健康障害に対する対策を検討する。 それら病原因子である化学物質や病原微生物・ウイルスの生活環境中での分析結果の文献調査試料に基づき、その対策を考察する。 対象とする生活環境は、水・大気・土壌・食品・嗜好品などを取り扱う。 これら病原による発症機構についても学び、生活環境の評価方法を検討して行くことを目的とする。		
受講資格	大学院修士課程の学生	成績評価 方法	授業における「気づき」「探究心」「説明力」とレポートによる最終試験 ①レポート100点
教科書	特になし ただし、資料や原著の活用		
参考書	特になし		
学生への要望	人間は環境からのストレスに影響を受けやすい集団が存在する。具体的には発達段階の子供であったり、高齢者、疾病の罹患者などである。 幼児教育・栄養士・福祉士等はこれら免疫弱者を対象とする職能である。いわば環境因子に影響を受けやすい人間集団の特性を科学的に理解しておく必要がある。 環境因子や疾病については学生の希望を考慮する。		
オフィスタイム	月曜日から金曜日の5コマ目、食品衛生学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	この科目を受講した理由と学びたい分野について説明していただく。 テーマを個人的に設定する。テーマは病原菌(B)と毒性物質(C)を各１つ設定する。 授業計画を立てる。 資料や原著を検討するために図書館を調査する。	自身の興味がある分野について、書籍、文献調査を行う。	60
2	テーマ(B)の基礎知識- 1	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 テーマに関する概要：歴史経緯、危害	引き続き興味のある問題について、書籍、文献調査を行う。	60
3	テーマ(B)の基礎知識- 2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路	興味のある問題について基礎知識をまとめ、講義で説明（発表）を行う。	60
4	テーマ(B)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：病気の自然史など	興味のある問題について、最新の情報をまとめ、どんなことが問題なのかについて調べる。	60
5	テーマ(B)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：検出方法や毒性機構	興味のある問題について、その問題を調べるための方法を調べ考える。	60
6	テーマ(B)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：生体の反応	興味のある問題について、実験を進めるための具体的手法をノートにまとめる。	60
7	テーマ(C)の基礎知識- 1	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 テーマに関する概要：歴史経緯、危害	興味のある問題について実際に実験を行った結果をまとめる。	60
8	テーマ(C)の基礎知識-2	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：環境分布、曝露条件、感染経路	実験結果を数値を解釈し、図表にまとめる。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	テーマ(C)の基礎知識-3	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：病気の自然史など	結果の数値の示す意味について考える。	60
10	テーマ(C)の基礎知識-4	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：検出方法や毒性機構	結果から言えることを考え、文献によって裏付けする。	60
11	テーマ(C)の基礎知識-5	印刷資料や参考書に基づいて、基礎知識を学ぶ。 病原因子に関する概要：生体の反応	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
12	生活環境中の危害因子の分析方法と曝露条件	仮説に基づいた病原因子と疾病で、危害因子の分析方法と曝露状況に関する報告を調べる。 論文の要旨や実験データをまとめて、疾病の原因としての仮説を立てる。	これらの問題について、結果からその問題点と解決するためにどんなことが提案できるのか考える。	60
13	危害因子の感染経路と生体内挙動と排泄経路	危害因子の曝露条件だけでなく、感染経路、生体内挙動や排泄経路など疾病の症状を説明しているか調べる。 罹患者の地域的分布などが危害因子の挙動に一致しているか検討する。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
14	危害因子による発病機構	発病機構に関する報告を調査する。その発病機構を傷害すると疾病が抑制されるか検討した報告を調査する。	報告会のプレゼンテーション資料の作成	60
15	生活環境中の危害因子の除去方法	生活環境中の危害因子の除去する事によって、疾病が抑制されることを確認して、危害因子の環境中での閾値を調べる。その基準値が定められた場所で、その疾病の発生頻度が抑制されているか検討する。	発表終了後、プレゼンテーション内容について討論した点を修正しまとめなおす。	60

令和5年度

科目名	建築設計演習Ⅰ	**対象 単位数 必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 4単位 選択
担当教員	佐久間　保一		
開講期	前期		
授業概要	住環境における安全と危険性を分析する。 住宅及び住環境におけるバリアフリー、ユニバーサルデザインの必要性を実際の建築物と法令を通して学ぶ。		
達成目標	住環境における安全と危険性を分析する。 住宅及び住環境におけるバリアフリー、ユニバーサルデザインの必要性を実際の建築物と法令を通して学ぶ。		
受講資格	大学院修士課程	**成績評価 方法**	課題の提出と出席状況による
教科書	人にやさしいまちづくり条例 建築・都市のユニバーサルデザイン		
参考書			
学生への要望	建築環境におけるユニバーサルデザインの必要性を確認する。		
オフィスタイム			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1		授業ガイダンス、建築環境におけるユニバーサルデザインの現状。		0
2		住宅におけるバリアフリーと危険の予防。		0
3		住環境におけるシックハウスの予防と実際。		0
4		生活環境とユニバーサルデザイン		0
5		生活環境に求められる要素		0
6		バリアフリーデザインからユニバーサルデザインへ		0
7		多様な属性と環境		0
8		ユニバーサルデザインのプロセス		0
9		ユニバーサルデザインの手法		0
10		外部空間のユニバーサルデザイン		0
11		公共建築のユニバーサルデザイン		0
12		居住空間のユニバーサルデザイン		0
13		人にやさしい街づくり条例		0
14		①実際の建築図面においてユニバーサルデザインを取り入れる演習		0
15		②実際の建築図面においてユニバーサルデザインを取り入れる演習		0

令和5年度

科目名	建築設計演習Ⅱ	**対象 単位数 必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 4単位 選択
担当教員	藤田　延幸		
開講期	前期		
授業概要	建築設計演習Ⅰに引き続き、鉄筋コンクリート造や鋼構造、混構造の設計を、現代において必要とされる建築をテーマとして社会問題とリンクさせながら設計する。さらに、設計事務所等業務の一環であり、建築的思考およびその表現の効果的かつ集中的に実践できる建築コンペティションへの参加可能な作品制作をすることを目的とする。なお、この科目は一級建築士受験に係わる大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。		
達成目標	高いレベルで自らの建築作品のコンセプト、計画の方法、その表現がなされていること。 優秀案選出を目指してコンペに応募することを目標とする。		
受講資格	大学院修士課程	**成績評価 方法**	作品成果発表（コンセプト内容、計画方法の法的適正、斬新さ、表現の明解性、美しさ）で評価する。 評価項目は、知識力３０％、応用力・問題解決力７０％とする。
教科書	特に使用しない。		
参考書	課題説明時に適宜紹介する。		
学生への要望	実践的な知識と技術を持って、現実的な作品成果を目指すこと。		
オフィスタイム	月曜日授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室 月曜日授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス、「ショッピングセンター」課題説明	授業ガイダンス、「ショッピングセンター」課題説明		0
2	課題の主旨、関連事項のスタディー	課題の主旨、関連事項のスタディー		0
3	エスキスチェック	エスキスチェック		0
4	エスキスチェック	エスキスチェック		0
5	図面、模型作成	図面、模型作成		0
6	図面、模型作成	図面、模型作成		0
7	図面、模型作成	図面、模型作成		0
8	作品成果の発表、課題提出	作品成果の発表、課題提出		0
9	「劇場」課題説明、資料収集	「劇場」課題説明、資料収集		0
10	課題の主旨、関連事項のスタディー	課題の主旨、関連事項のスタディー		0
11	エスキスチェック	エスキスチェック		0
12	エスキスチェック	エスキスチェック		0
13	図面、模型作成	図面、模型作成		0
14	図面、模型作成	図面、模型作成		0
15	作品成果の発表、課題提出	作品成果の発表、課題提出		0

令和5年度

科目名	建築設計特論	**対象 単位数 必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	山形　敏明		
開講期	後期		
授業概要	建築分野における各種団体の業務や役割について学び，広く建築界の仕組みを知る。また，プロポーザルやコンペテーションの事例研究を通して，そのプロセスや社会的意義，コンセプトの立案手法，プレゼンテーションテクニックを学ぶ。なお，この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。 レポートは返却し、コメントによるフィードバックを行います。		
達成目標	単位認定最低基準：講義内容８割を理解し，建築設計事務所等で業務に携わるための実践的手法及び技術者として倫理観を修得していること。		
受講資格	修士1年	**成績評価 方法**	レポート70％、プレゼンテーション30％の割合で評価する。
教科書	適宜，資料を配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
学生への要望	今日の建築界の仕組みを把握するために，建設関連の新聞記事等に親しむこと。		
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	授業のガイダンス，建築分野における諸団体の概要について解説する。	授業内容をテキストで復習	60
2	建築士の責務	建築士の責務及び，日本建築士会の業務及び役割について講義する。	授業内容をテキストで復習	60
3	日本建築学会について	建築関連業務に多くの基準を策定している日本建築学会の学術的位置づけについて解説する。	授業内容をテキストで復習	60
4	日本建築家協会について	JIA（日本建築家協会）の業務及び役割について講義する。	授業内容をテキストで復習	60
5	建設業協会について	建設業協会，福島県の木工組合他の業務及び役割について講義する。	授業内容をテキストで復習	60
6	防災と建築関連団体について	災害時における建築関連団体の役割と責務，及び活躍事例について講義する。	授業内容をテキストで復習	60
7	地方自治体との関係について	地方自治体と建築関連各種団体との関連について解説する。	授業内容をテキストで復習	60
8	入札制度について	プロポーザルやコンペテーションのプロセスについて講義する。	授業内容をテキストで復習	60
9	コンペテーションについて	コンペテーションの事例を紹介し理解を深める。	授業内容をテキストで復習	60
10	プロポーザルについて	プロポーザルの事例を紹介し理解を深める。	授業内容をテキストで復習	60
11	福島県の事例について	福島県におけるプロポーザルやコンペテーションにおいて建設された建築の事例研究を行う。	授業内容をテキストで復習	60
12	問題点について	プロポーザルやコンペテーションの事例における当落及び問題点等に関する議論する。	授業内容をテキストで復習	60
13	設計コンセプトと手法	プロポーザルにおける設計コンセプトの把握と立案手法について講義する。	授業内容をテキストで復習	60
14	表現テクニック	プロポーザルやコンペテーションにおける表現テクニックについて研究する。	授業内容をテキストで復習	60
15	まとめ	レポート発表を行い、本講座について総括する。	授業内容をテキストで復習	60

令和5年度

科目名	建築計画特論	**対象 単位数 必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 2単位 選択
担当教員	山形　敏明		
開講期	前期		
授業概要	建築分野における各種団体の業務や役割について学び，広く建築界の仕組みを知る。また，プロポーザルやコンペテーションの事例研究を通して，そのプロセスや社会的意義，コンセプトの立案手法，プレゼンテーションテクニックを学ぶ。なお，この科目は一級建築士受験に係る大学院における実務経験の要件となるインターンシップ科目である。レポートを添削・返却し、コメントによるフィードバックを行います。		
達成目標	単位認定の最低基準：「当講義内容の8割を理解していること」、「建築設計事務所等で業務に携わるための実践的手法及び技術者として倫理観を修得していること」		
受講資格	修士1年	**成績評価 方法**	レポート70％、プレゼンテーション30％の割合で評価する。
教科書	適宜，資料を配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
学生への要望	今日の建築界の仕組みを把握するために，建設関連の新聞記事等に親しむこと。		
オフィスタイム	月曜日12:50～14:20、14:30～16:00 住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業ガイダンス	授業のガイダンス，建築分野における諸団体の概要について解説する。	授業内容を復習	45
2	建築士の責務	建築士の責務及び，日本建築士会の業務及び役割について講義する。	授業内容を復習	45
3	日本建築学会について	建築関連業務に多くの基準を策定している日本建築学会の学術的位置づけについて解説する。	授業内容を復習	45
4	日本建築家協会について	JIA（日本建築家協会）の業務及び役割について講義する。	授業内容を復習	45
5	建設業協会について	建設業協会，福島県の木工組合他の業務及び役割について講義する。	レポート準備	60
6	防災と建築関連団体について	災害時における建築関連団体の役割と責務，及び活躍事例について講義する。	授業内容を復習	45
7	地方自治体との関係について	地方自治体と建築関連各種団体との関連について解説する。	授業内容を復習	45
8	入札制度について	プロポーザルやコンペテーションのプロセスについて講義する。	授業内容を復習	45
9	コンペテーションについて	コンペテーションの事例を紹介し理解を深める。	レポート準備	60
10	プロポーザルについて	プロポーザルの事例を紹介し理解を深める。	授業内容を復習	45
11	福島県の事例について	福島県におけるプロポーザルやコンペテーションにおいて建設された建築の事例研究を行う。	授業内容を復習	45
12	問題点について	プロポーザルやコンペテーションの事例における当落及び問題点等に関する議論する。	授業内容を復習	45
13	設計コンセプトと手法	プロポーザルにおける設計コンセプトの把握と立案手法について講義する。	授業内容を復習	45
14	表現テクニック	プロポーザルやコンペテーションにおける表現テクニックについて研究する。	レポート準備	60
15	まとめ	レポート発表を行い、本講座について総括する。	レポート準備	60

令和5年度

科目名	建築生産計画特論	**対象 単位数 必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	堀井　勝典		
開講期	前期		
授業概要	１．学科3年のときに学んだ施工を、さらに深く掘り下げ、施工のプロセスおよびその実務の関連などを有機的、絶対的に把握してもらうことを目的とする。 ２．いずれ建築士を取得するための知識の習得。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建築設計事務所社長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建築設計事務所社長を務める。		
達成目標	１．学科3年のときに学んだ施工を、さらに深く掘り下げ、施工のプロセスおよびその実務の関連などを有機的、絶対的に把握してもらうことを目的とする。 ２．いずれ建築士を取得するための知識の習得。		
受講資格	修士課程１年生	**成績評価 方法**	授業20%、小テスト30%、小論文50%
教科書	図説建築施工入門、建築施工教科書		
参考書	特に指定しない		
学生への要望	少数なのでとにかく頑張ること。		
オフィスタイム	水曜日授業開始前（創学館２階教務部内非常勤講師室）、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	着工準備	設計、契約、営業活動、各種書類手続き		0
2	着工準備	建設産業の構造、施工管理、近隣関係		0
3	着工準備	敷地の確認、現場事務所、着工、測量		0
4	土工事、基礎工事	地下工事、根切り、近隣対策		0
5	土工事、基礎工事	杭打工事（最近の新工法）		0
6	躯体工事	鉄筋工事（加工図、製作図、検査）		0
7	躯体工事	現場における建方、鉄筋工事の流れ		0
8	躯体工事	コンクリート工事（躯体図、加工図、検査）		0
9	躯体工事	建物の解体		0
10	躯体工事	建築の工業化、設計の実務		0
11	仕上工事	躯体工事から仕上工事への移行		0
12	仕上工事	防水工事（下地、養生）		0
13	仕上工事	内屋の仕上工事（床、壁、天井）、施工例紹介		0
14	仕上工事	外部の仕上工事（タイル、吹抜）、施工例紹介		0
15	まとめ	最終まとめ、設計事務所の役割		0

令和5年度

科目名	建築構造計画特論	**対象 単位数 必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 2年 2単位 選択
担当教員	濱尾　博文		
開講期	前期		
授業概要	大学４年間で学んだ建築構造の基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用し、どう計画していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所代表取締役を務める。		
達成目標	大学４年間で学んだ建築構造の基礎知識、または、これまで学んできた一般力学や物理学、数学の知識を結合して、建築デザインを行う上でこれらをどう活用し、どう計画していくのか、どのように応用、展開していくのか、具体的な事案、実際に直面する問題を交えながら学んでいく。		
受講資格	大学院修士課程	**成績評価 方法**	試験100％
教科書	特に指定しない。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	予習、復習を必ず行うこと		
オフィスタイム	授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	イントロダクション	「建築構造計画とは」建築設計との位置づけと社会的役割		0
2	構造計算モデル１	応用解析に用いる解析用モデルの作り方、基礎的ルール		0
3	構造計算モデル２	実物から解析可能なまでに単純化されたモデルの作り方		0
4	荷重と変形１	単純な架構モデルに力が加わった時の変形と曲げのモーメント		0
5	荷重と変形２	単純な架構モデルの応力図における釣り合いと反力		0
6	荷重と変形３	やや複雑な架構モデルの応力の求め方		0
7	荷重の考え方	建築設計で想定される荷重の種類と考え方		0
8	応用解析１	解析モデルの入力の方法		0
9	応用解析２	モデルの応力解析と結果の検証		0
10	応用解析３	実例に近いモデルの応力解析と結果の検証		0
11	断面算定１	応力度、断面に関する数値（断面２次モーメント）		0
12	断面算定２	応力度、断面に関する数値（断面係数）		0
13	座屈	座屈とは、座屈を起こすしくみ		0
14	たわみ	たわみが引起こる仕組み、たわみ量と荷重の関係		0
15	保有水平耐力	保有水平耐力を求める意味と、必要保有水平耐力の決め方		0

令和5年度

科目名	建築材料特論	**対象 単位数 必選**	大学院 人間生活学研究科修士課程 1年 2単位 選択
担当教員	藤田　延幸		
開講期	後期		
授業概要	授業の到達目標及びテーマ 建築材料のもつ基本的特性を説明した上で、それが実際の建物でどのように組み合せて施工されているかを理解してもらう。 将来の建築材料として、どのようなものが考えられるか予想する。 授業の概要 　「材料」の理解を容易にするため、各種材料を構造的なものから、仕上的、機能的なものの順に説明し、基本を理解してもらう。次いで応用編、材料の組合せによってどのような効果が生まれ、その配慮をすることで醸し出される空間の色々を実例で示す。 実務経験：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務め、その経験を活かし、授業を行う。 実務経歴：一級建築士として建築事務所勤務を経て、現在建設設計事務所長を務める。		
達成目標	授業の到達目標及びテーマ 建築材料のもつ基本的特性を説明した上で、それが実際の建物でどのように組み合せて施工されているかを理解してもらう。 将来の建築材料として、どのようなものが考えられるか予想する。 授業の概要 　「材料」の理解を容易にするため、各種材料を構造的なものから、仕上的、機能的なものの順に説明し、基本を理解してもらう。次いで応用編、材料の組合せによってどのような効果が生まれ、その配慮をすることで醸し出される空間の色々を実例で示す。		
受講資格	人間生活学研究科人間生活学専攻１年生	**成績評価 方法**	定期試験により評価します。
教科書	「建築材料（第四版）」編著：橘高義典、杉山央　市ヶ谷出版社 「建築材料教科書（第六版）」編著：建築材料教科書研究会　彰国社		
参考書	参考資料があれば配付します。		
学生への要望	積極的に授業に参加すること。		
オフィスタイム	授業開始前：創学館２階教務部非常勤講師室 授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の概要説明	授業の概要説明		0
2	［構造用材料］　１．木材	［構造用材料］　１．木材		0
3	［構造用材料］　２．構造用金属材料	［構造用材料］　２．構造用金属材料		0
4	［構造用材料］　３．コンクリート	［構造用材料］　３．コンクリート		0
5	［内外装材料］　４．非金属材料	［内外装材料］　４．非金属材料		0
6	［内外装材料］　５．石材	［内外装材料］　５．石材		0
7	［内外装材料］　６．ガラス	［内外装材料］　６．ガラス		0
8	［内外装材料］　７．セラミック	［内外装材料］　７．セラミック		0
9	［内外装材料］　８．プラスチック	［内外装材料］　８．プラスチック		0
10	［内外装材料］　９．左官材料	［内外装材料］　９．左官材料		0
11	［内外装材料］　10．塗装	［内外装材料］　10．塗装		0
12	［内外装材料］　11．外壁パネル	［内外装材料］　11．外壁パネル		0
13	［機能材料］　12．防水材料、防耐火材料、断熱材料	［機能材料］　12．防水材料、防耐火材料、断熱材料		0
14	［機能材料］　13．音響材料、免震・制振材料	［機能材料］　13．音響材料、免震・制振材料		0
15	各種建築材料の組み合せの効果・実例紹介	各種建築材料の組み合せの効果・実例紹介		0

令和5年度

科目名	哲学的人間学特論Ⅱ	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択
担当教員	齋藤　智志		
開講期	後期		
授業概要	【授業の目的・ねらい】 近代以降の哲学に決定的な影響を与えたドイツの哲学者カントは哲学の問いを、「私は何を知ることができるか」（認識論）、「私は何をなすべきか」（道徳論）、「私は何を望んでよいか」（宗教論）の三つに分類したうえで、これらを総合するのが「人間とは何か」という「人間学」の問いであるとしている。本授業は、主として認識論を扱う。道徳にせよ宗教にせよ、それを考えるにあたっては、まず認識論が土台となるからである。 【授業全体の内容の概要】 哲学的人間学的知見を生産的に継承し、人間学的に認識論を検討するうえで有益な見解を呈示しているO・F・ボルノーのテクストに沿いながら、「私は何を知ることができるか」という問題について考える。 【課題に対するフィードバックの方法】 毎授業ごとにレポートを課すので、次の時間にそれに関するフィードバックを行う。		
達成目標	【達成目標】 ①合理論と経験論の内容を理解し、それらの問題点を指摘できる。 ②認識の哲学の課題を指摘できる。 ③ディルタイ、ベルグソン、デューイ、ハイデガーといった哲学者の思想内容が理解できる。 【ディプロマ・ポリシー（DP）と授業科目との関連】 ①本授業は、DPにある「自立して研究を行うに十分な（……）人間生活に関する豊かな学識」を、認識論という切り口から陶冶する。 ②本授業は、DPにある「専門領域に関する問題解決のために取り組む態度」を、〈テクスト読解→レポート作成→フィードバック〉というサイクルを通して陶冶する。 ③本授業は、DPにある「新たな概念の構築に対して、十分な学識と革新性、自律性、倫理観を持って積極的に参画しようとする態度」を、抽象度の高い哲学のテクストを熟読し、読解・解明するという作業を通して陶冶する。 【単位認定方法の最低基準】 内容の8割を理解していること。		
受講資格	博士課程１年	**成績評価** **方法**	
教科書			
参考書			
学生への要望			
オフィスタイム			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間

令和5年度

科目名	人間生体特論Ⅱ	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択
担当教員	西山　慶治		
開講期	後期		
授業概要	人体を構成する基本的構造と機能を学ぶため、細胞、組織、器官並びに系統別レベルで学修します。この学修によりヒトが進化して現在の構造と機能を獲得する過程で、人体に具現化された自然の法則を学びます。授業の中間（８回目終了時）に小問のレポートを課し、内容をフィードバックします。これには人体解剖（38年間の教授暦）と機能形態学を基盤に指導する。　ナンバリング　1、3		
達成目標	人体について構造と機能を理解し、さらに人類の進化を学修することによりヒトの形態と機能を概説できる。内容の7割を理解することを希望します。		
受講資格	大学院に籍をおき、人類の進化に興味を抱くこと	**成績評価** **方法**	レポート2回を50点ずつにして、計100点として成績とします。
教科書	講義プリントを配布して使用		
参考書	シンプル解剖生理学、入門人体解剖学、他		
学生への要望	人体の構造と機能を学び、ヒトの存在について考える。		
オフィスタイム	水曜日あるいは木曜日の放課後（5校時以降）に家政学館3階解剖学研究室において。不在の時にはメモを残すこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	解剖学総論	人体とは、自然の法則が人体を借りて具現化されたものである。その法則を人体の基本構造から学ぶ。	人体の基本的形態、特徴、進化、系統、器官、組織、細胞などの基本的用語を確認する。	60
2	細胞学	生命の最小単位である細胞について、その構造と機能を学ぶ。	細胞の構造と機能、遺伝子の働きを復習する。	90
3	組織学総論	人体を構成する上皮組織、支持組織、筋組織並びに神経組織について学ぶ。	人体の4つの組織の概念を調べる。	30
4	骨格系Ⅰ	人体の支柱である骨格の組織構造と役割、発生、機能・経年変化、骨の連結を学ぶ。	骨の構造、組織、働き、連結、発生を調べる。	60
5	骨格系Ⅱ	各骨格の名称と形状を学び、各部位での役割を理解して人体の特徴を学ぶ。	主要な骨の名称と形状を学び、関節の動きを考える。	60
6	筋系	骨格筋の概略を学び、運動器としての役割を理解する。	筋肉の種類、筋収縮、主要な筋の作用を調べる。	60
7	消化器系Ⅰ	消化器の各部位の構造を学び、消化機能の概略を理解する。	消化器の各部の位置、名称、形、役割をまとめる。	90
8	消化器系Ⅱ	消化器の主要部位の組織構造と機能を学ぶ。	消化腺の名称、位置、役割をまとめる。	60
9	呼吸器系	呼吸器の各部位の構造を学び、呼吸機能の概略を理解する。	呼吸器系の主要部位の名称、位置、形態、働きを調べる。	60
10	泌尿・生殖器系	尿の生成と排泄を担う器官の構造と機能を学ぶ。 生殖器の構造、性差、発生並びにその機能を学ぶ。	泌尿・生殖器の主要部位の名称、形状、役割をまとめる。	60
11	脈管系、内分泌系	心臓を中心とした循環器の構造と役割を学ぶ。 ホルモンを使って情報を伝達する内分泌系の構造と働きを学ぶ。	体液の循環、心臓の位置、構造、全身の主要血管を調べる。	90
12	神経系Ⅰ	中枢神経系の脳と脊髄の位置、構造、機能について学ぶ。	脳と脊髄の形状、位置、働きを調べる。	60
13	神経系Ⅱ	末梢神経の脳神経と脊髄神経並びに自律神経について学ぶ。	末梢神経の主要なものの名称と分布を調べる。	30
14	感覚器系	人体の情報入力器官である感覚器の構造と機能を学ぶ。	５感の感覚器の名称、形、働きをまとめる。	60
15	発生学	人体の発生と形成を学び、人類の特徴を理解する。	人体の発生と成長並びに老化を考える。	30

令和5年度

科目名	健康生活特別研究	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 4単位 選択
担当教員	紺野　信弘		
開講期	通年		
授業概要	健康生活特別研究は「大学院博士課程」で開講しているので、博士論文の執筆指導と関連論文の講読である。		
達成目標	【単位認定方法と最低基準】出席を重視します。英語論文の翻訳と論文執筆の進行状況に注目します。学術誌への投稿にも注目します。【デプロマポリシーと授業科目の関連】①知識の獲得とその理解、②総合的な学習経験と創造的思考の獲得		
受講資格	大学院博士課程の院生	**成績評価** **方法**	英文講読20点、論文執筆80点　合計100点満点
教科書	特にありません。授業に必要な印刷物は配布します。		
参考書	国民衛生の動向 Healthy women, healthy lives. a harvard medical school book ISBN 978-0-7432-1774-3		
学生への要望	論文執筆に関連してできるだけ多くの学術論文を読むこと。		
オフィスタイム	水曜日のⅤコマ目、木曜日のⅣコマ目 臨床研究室（副学長室）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	健康とはなにかについて調べる	60
2	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	生活習慣病について考察する	60
3	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	疫学の概念について調べる	60
4	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	良く使われる疫学について調べる	60
5	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
6	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
7	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
8	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
9	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
10	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
11	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
12	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
13	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
14	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60
15	論文講読	執筆中の学位論文についての論議	執筆論文の問題点、注目点などを日常的に考える。	60

令和5年度

科目名	健康生活特論Ⅱ	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択
担当教員	紺野　信弘		
開講期	前期		
授業概要	人間の健康について、英文専門書の翻訳を通して学習する。翻訳の過程で疫学的な考え方についての講義も行う。集団の健康を扱うのに必要な統計の手法についても学ぶ。博士論文作成用の学術論文の講読。【課題に対するフィードバックの方法】博士論文執筆に必要と思われる英文の原著論文を読む。博士論文の、特に考察を記述するのに役立つ。		
達成目標	人間の健康、特に人間集団の健康を知る上での疫学的考え方の重要性を学ぶ。講義を通じて博士論文作成の手順を学習する。【単位認定方法と最低基準】出席及び講義中で翻訳した英文のレポート提出。【デプロマポリシーと授業科目の関連】①知識の獲得とその理解、②総合的な学習経験と創造的思考の獲得		
受講資格	大学院博士(後期課程）の院生	**成績評価** **方法**	英文講読の和訳の提出60点、レポート提出40点 合計100点満点
教科書	特にありません。		
参考書	特にありません。 多くの英文（原著論文）を読む。		
学生への要望	授業では、パソコンを使用することがあるので、パソコンは常に持参すること。		
オフィスタイム	水曜日のⅤコマ目、木曜日のⅣコマ目 臨床生理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康の概念	健康とはなにかを、公衆衛生学の立場から、あるいはWHO憲章、日本国憲法の生存権から考える。	健康とはなにかについて調べる	60
2	健康の概念	健康とはなにかを、公衆衛生学の立場から、あるいはWHO憲章、日本国憲法の生存権から考える。	健康とはなにかについて調べる	60
3	疫学（1）	疫学とは。疫学の歴史。個人の健康から集団の健康へ。	疫学の概念について調べる	60
4	疫学（2）	疫学とは。疫学の歴史。個人の健康から集団の健康へ。	疫学の概念について調べる	60
5	保健統計（1）	集団の健康評価に必要な保健統計について。人口静態統計と人口動態統計について。	人口静態・動態統計の違いを調べる	60
6	保健統計（2）	集団の健康評価に必要な保健統計について。人口静態統計と人口動態統計について。	人口静態・動態統計の違いを調べる	60
7	英文講読（1）	健康系の英文原著論文の講読	講義の時間内にできなかったところを翻訳する。	60
8	英文講読（2）	英文講読（1）の続き。論文の解釈と解説	講義の時間内にできなかったところを翻訳する。	60
9	英文講読（3）	英文講読（2）の続き。論文の解釈と解説	講義の時間内にできなかったところを翻訳する。	60
10	英文講読（4）	英文講読（3）の続き。論文の解釈と解説	講義の時間内にできなかったところを翻訳する。	60
11	女性の健康（1）	英文講読"Healthy women, healthy lives"米国ハーバード大学医学部から出版されている「女性の健康的な生き方」についてのテキストをもとに"健康"について考える	与えられた部分の和訳を行う	60
12	女性の健康（2）	上記テキストの中にある、"看護師の健康研究とは"について英文和訳をしながら学習する。	英文和訳の継続	60
13	女性の健康（3）	"健康研究"を講読しながら疫学について解説、学習する。	和訳部分を解釈し意味の理解に努める	60
14	女性の健康（4）	"健康研究"を講読しながら疫学について解説、学習する。	和訳部分を解釈し意味の理解に努める	60
15	女性の健康（5）	"健康研究"を講読しながら疫学について解説、学習する。	和訳部分を解釈し意味の理解に努める	60

令和5年度

科目名	家政学原論特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 必修
担当教員	影山　彌		
開講期	前期		
授業概要	故関口富左名誉学園長が提唱された、「新しい家政学のパラダイム」について、現代における学問観、科学観及び家政学原論を通して、その今日的意味を検証するとともに、その発展的展開の可能性を探る。		
達成目標	本学の「新しい家政学のパラダイム」のもつ、現在および将来の学問としての家政学に対する可能性について認識できること。		
受講資格	大学院　人間生活学研究科人間生活学専攻博士課程1年	**成績評価** **方法**	発言力（20%）　　レポート（80%）
教科書	関口富左『家政哲学』家政教育社1977，関口富左編著『人間守護の家政学』家政教育社		
参考書	O.F.ボルノー著、大塚恵一他訳『人間と空間』せりか書房1978　　G.バシュラール著、岩村行雄訳『空間の詩学』思潮社1969　　サン＝テグジュペリ著、山崎庸一郎訳『城砦』みすず書房1976		
学生への要望	参考文献を事前に読むことに努める。		
オフィスタイム	金曜日を除く昼休み（12：00～12：50） 創学館４階N0.2研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	「家政学の新しいパラダイムについてⅠ」	1984年、オスロー大学で開催された国際家政学会で発表した、「家政学の新しいパラダイムⅠ」、すなわち新しい家政学の理念論について解説する。	講義資料について復習する。	60
2	「家政学の新しいパラダイムについてⅡ」	新しい家政学の構想における、独自の方法論の探求（構築）について解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
3	「家政学の新しいパラダイムについてⅢ」	新しい家政学の構想における、公的政策の領域設定について解説する。	講義資料について予習・復習する。	60
4	『家政哲学』の理解（１）	関口富左編著『家政哲学』第三章人間守護の家政学を通して、「家政学の新しいパラダイムⅠ」の家政学の理念論を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
5	『家政哲学』の理解（２）	『家政哲学』第三章の理解を通して、「家政学の新しいパラダイムⅡ」の独自の方法論を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
6	『家政哲学』の理解（３）	『家政哲学』第六章人間守護と社会を通して、「家政学の新しいパラダイムⅢ」の公的政策の領域を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
7	サン＝テグジュペリ『城砦』の理解	『家政哲学』の思想の基盤の一つとなっている、サン＝テグジュペリにおける「住むこと」の意味を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
8	G.バシュラール『空間の詩学』の理解	G.バシュラールにおける「住むこと」の哲学的意味を捉える。	講義資料について予習・復習する。	60
9	O.F.ボルノー『人間と空間』の理解	『家政哲学』の大きな哲学的基盤となっている、O.F.ボルノーにおける「住むこと」の人間学的意味を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
10	O.F.ボルノー　「人間とその家」の理解	O.F.ボルノーにおける「住むこと」の人間学的意味を捉える。	講義資料について予習・復習する。	60
11	M.ハイデガー『建てる、住む、学ぶ』の理解	M.ハイデガー　晩年の思想の転換といわれる、彼の「住むこと」の意味を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
12	関口富左編著『人間守護の家政学』の理解（１）	『人間守護の家政学』第２部家政学原論を通して、本学家政学の理念、「人間守護」、目的を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
13	『人間守護の家政学』の理解（２）	第２部家政学原論を通して、本学家政学の定義・対象・方法を理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
14	『人間守護の家政学』の理解（３）	第２部家政学原論を通して、本学家政学の独自性・体系構造・行為・技術などを理解する。	講義資料について予習・復習する。	60
15	本学家政学のパラダイムの検証	本学家政学のパラダイムが妥当性を有するかどうか、現代の科学編、学問編から検証する。	講義資料について予習・復習する。	60

令和5年度

科目名	家族関係学特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択
担当教員	知野　愛		
開講期	後期		
授業概要	人間生活の基盤となる家族に焦点をあて、家族の意義と機能、家族の変化等を家族社会学的視点から考察する。筆記試験を実施後、採点後それを返却しフィードバックする。		
達成目標	達成目標は、最終の筆記試験で8割以上の得点をとること。 単位認定の最低基準:内容の8割を理解していること。		
受講資格	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年	**成績評価方法**	授業提出物(50点)、筆記試験(50点)
教科書	木下謙治監修『家族社会学　基礎と応用』九州大学出版会　2019年		
参考書	随時提示		
学生への要望	授業に関連するテーマの新聞記事や書籍を積極的に読むこと。		
オフィスタイム	火曜Ⅱ限10:45-12:05、Ⅲ限13:05-14:25　地域創成学科No.1研究室(芸術館1階)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	授業の進め方と概要	シラバスに基づき、授業概要、授業目標、成績評価の付け方、今後の授業予定等を説明する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
2	家族とは何か	人間と家族、家族と世帯、家族構成、家族の変容について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
3	家族の変動	家族変動論、産業化と家族変動の諸側面、家族変動の行方について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
4	配偶者選択と結婚	配偶者の選択、結婚選択への過程、結婚について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
5	夫婦関係	夫婦関係に関する社会学的視点、家制度と夫婦関係、近代家族と夫婦関係、夫婦の勢力関係と情緒関係等について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
6	親子関係	社会学から見た親子関係、家族周期と親子関係、ひとり親世帯・ステップファミリー・事実婚における親子関係について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
7	高齢者と家族	現代社会における高齢者、高齢者の家族構成、高齢者と家族の関係性、老親扶養と家族関係について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
8	結婚の多様化と家族	近代的な結婚、日本における近代的な結婚規範、企業社会と結婚等について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
9	生殖補助医療と家族	生殖補助医療とは、諸問題、日本での状況、生殖補助医療をめぐる裁判事例他について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
10	少子化と子育て環境	日本の少子化の状況、第二の少子化期の社会的動向、少子化対策、少子化の要因と背景等を考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
11	青少年問題と家族	青少年の定義と最近の若者たち、青少年問題としての非行、非行少年と家族、青少年問題からみた現代家族等について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
12	高齢者介護の諸問題	高齢者介護の動向と家族の抱える諸問題、家族政策と高齢者介護等について考察する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
13	授業全体の振返り・筆記試験	授業全体の内容を振り返り、理解度を確認するために筆記試験を実施する。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
14	補足	国際養子縁組における親子関係、アメリカにおける状況等について学ぶ。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60
15	筆記試験の結果講評・フィードバック	筆記試験の結果を返却し講評、フィードバックする。	復習:疑問点を調べ関連書籍を読み課題作成をする。予習:次回テーマの関連書籍を読む。	60

令和5年度

科目名	生活技術特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 必修
担当教員	山形　敏明		
開講期	後期		
授業概要	生活技術においては衣食住の観点から分野別に捉えられがちだが，生活技術の定義として「自己の生活を守り、より人間らしい関係を互いが創っていける条件づくり（略）」とあることから、人間が生活する上でのあらゆるカテゴリーを複合しての技術を獲得し人間的自立を目指す領域であると考える。よって授業では人が生活すると言うことを「住む」という視点から、人間生活上の総合的考察等を講義する。授業の方法は、あらかじめ指定の資料を用意し、その内容について受講生が報告する形式で授業を進める。またレポートの提出を求めることもある。レポートは確認後その内容に基づき討論する。		
達成目標	単位認定最低基準：「生活分野における科学技術について、基礎理論、応用技術他について現状と課題点について80％以上理解し、課題解決に当たる能力を有していること」		
受講資格	特になし	**成績評価** **方法**	討議50%、プレゼンテーション20%、レポート３０％で評価。
教科書	特に用いない。		
参考書	必要に応じてプリント配布または参考文献を紹介する。		
学生への要望	問題の解決にあたって、すでに身に付けた技能を適用するだけでなく、講義の諸過程で出る現象や結果に対する深い洞察力と考察力を自ら養成することを心がけること。各テーマの最終回には、講義内容に関するレポートの提出を求める。		
オフィスタイム	火曜日（Ｖ時限）：住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	講義の内容と進め方の説明。	次回テーマの予習。	60
2	生活技術の定義	生活技術の定義について概説し、①生理物理的機能，②心理的機能，③社会的機能，のそれぞれの意味することの機能は社会的文化やライフスタイルの変化ともに変化することを理解する。	講義内容の復習。	60
3	高度経済成長と社会的変化（1）	高度経済成長期における家庭生活の変化、変革について解説する。	講義内容の復習。	60
4	高度経済成長と社会的変化（2）	住まいにおける生活形態の変化について、解説と討論を行う。	講義内容の復習。	60
5	住居形態の変遷	明治以降の住居形態の変遷と家族関係の変化について解説する。	講義内容の復習。	60
6	住まいに必要な環境整備	住まいの熱環境、空気環境と湿気、光環境、音環境についての特性について解説する。	講義内容の復習。	60
7	子育て世代の住まい方	子育て世代に必要な生活技術について解説、討論する。	講義内容の復習。	60
8	高齢者と住まい	高齢化社会におけるサステナブルな住まいと心身機能の特性について解説し、討論する。	講義内容の復習。	60
9	自立支援のため住居	自立支援のための住居改善について解説し、討論する。	講義内容の復習。	60
10	人生100年時代の生活	人生100年時代と言われる現代において、青年期、子育て期、老年期、介護期についてどのように生活技術は昇華すべきか討論する。	講義内容の復習。	60
11	ＩＴ化における現代家庭の生活機能	IT化が進む現代社会において、生活機能および技術の変化に対する対応の課題について討論する。	講義内容の復習。	60
12	断捨離について	住まい生活においての断捨離のメリットとデメリット、プライオリティの評価について考察し、討論する。	講義内容の復習。	60
13	技術と技能	生活技術としての衣食住、福祉について理論修得から技術及び技能の発展のシステムについて考察し、討論する。	講義内容の復習、並びにプレゼンテーションの準備。	80
14	まとめ	これまでの講義で得た基礎理論、応用技術、課題可決についてまとめプレゼンを行う。	課題点の復習。	60
15	総括と評価	生活技術におけるこれまでの講義内容を総括し、14回目で行われたプレゼンテーションについて評価する。	レポート提出準備。	60

令和5年度

科目名	生活情報特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択
担当教員	宮崎　正俊		
開講期	後期		
授業概要	情報は私たちの生活に深く浸透し、限りなく重要な役割を担っている。 もはや情報を正しく認識し、情報を有効に活用することが、豊かで充実した生活や社会活動には必要不可欠な時代になっている。 本講義ではそのような情報を多様な視点から考察する。 最終授業では、全体に対するフィードバックを行う。課題・レポート提出後、フィードバックの時間を設定し連絡する。 ☒ ☒ ☒ ☒		
達成目標	情報の重要性を深く理解し、生活や社会活動において正しく有効に活かすことができる。 単位認定の最低基準ディプロマポリシーとの関係：課題探求力、創造的思考力、総合的発想力は内容の7割を理解していること。 ☒ ☒ ☒ ☒		
受講資格		**成績評価方法**	出席とレポート
教科書	使用しない		
参考書			
学生への要望	問題意識をもって授業に出てほしい☒		
オフィスタイム			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	情報とは何か（1）	情報の意味と役割について考察する。		0
2	情報とは何か（2）	同上つづき。		0
3	情報の科学（1）	情報の科学的側面を学ぶ。		0
4	情報の科学（2）	同上つづき。		0
5	情報の処理	コンピュータの概要を学ぶ。		0
6	情報の蓄積	データベースの意義とその構築を学ぶ。		0
7	情報の流通	コンピュータネットワークの仕組みと利用を学ぶ。		0
8	経営と情報	企業のための情報活用のあり方を考察する。		0
9	教育と情報	情報教育と教育における情報技術の活用を考察する。		0
10	地域と情報	地域振興のための情報活用を考察する。		0
11	産業と情報	さまざまな産業における情報活用のあり方を考察する。		0
12	家庭と情報	暮らしの中の情報を考察する。		0
13	情報技術の潮流	最新の情報技術を腑瞰する。		0
14	情報社会論	情報社会の恩恵とリスクを考察する。		0
15	まとめ	講義のまとめとこれからの社会を考察する。		0

令和5年度

科目名	高齢社会特論	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択
担当教員	紺野　信弘		
開講期	後期		
授業概要	高齢化を背景に健康寿命の延伸は個人及び社会にとって喫緊の課題であることから、健康寿命を阻害する主な生活習慣病の概略を述べ、根拠に基づく予防法について解説する。福祉の分野では、介護の問題について介護保険制度と関連させて解説する。建築の分野では、「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バイアフリー法）が施工されている。高齢社会を考慮した住宅計画上の構成要素について扱う。		
達成目標	【デプロマポリシーと授業科目の関連】①知識の獲得とその理解、②総合的な学習経験と創造的思考の獲得。③博士論文執筆用に研究しているテーマの考察に資するようにする。		
受講資格	大学院博士課程の院生	**成績評価** **方法**	出席とレポート提出（100点）。レポートは3つの異なる課題が課せられる。
教科書	特に指定はない。		
参考書	特に指定はない。		
学生への要望	この授業は、「高齢社会」をキーワードに公衆衛生、福祉、建築の3分野の教員が分担して担当しているので、欠席しないようにすること。		
オフィスタイム	博士課程の院生が対象なので、教員の都合の良い時間に相談すること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	健康の概念	「高齢社会」を考える上で高齢者の健康問題は避けて通れない。初めに健康とは何かを公衆衛生の面から考察する。	健康問題は日々の新聞記事やニュースなどに取り上げられるので、関心をもってそれらに接して欲しい。	60
2	疫学とは	疫学は集団の健康を考える上で有力なツールとなる。疫学の歴史、種類等を学び健康問題に対する利用について考える。	疫学の概念について調べる	60
3	保健統計	人口動態・静態統計をもと（少子）高齢化問題を考える。	我が国の少子高齢化について調べる。	60
4	成人期の健康	成人期の健康はそれに続く高齢期の健康維持にも関係する。生活習慣病を基に成人期の健康について考える。	興味ある生活習慣病について調べる。	60
5	高齢者の健康	老化とは何かを考察し、加齢による生体の生理的変化や生活の質について考える。	高齢者の生活の質（QOL)について調べる。	60
6	健康寿命と平均寿命	主な死因と人口動態。	寿命・死因・人口動態などについて予習・復習をしましょう。	60
7	高齢者の健康管理	高齢者の健康と死因。	高齢者の疾患・死因などについて予習・復習をしましょう。	60
8	栄養と代謝、糖尿病の諸問題	栄養と代謝。 糖尿病の定義、分類、合併症、治療、予防。	糖尿病について予習・復習をしましょう。	60
9	認知症	認知症の定義、分類、症状、治療、予防。	認知症について予習・復習をしましょう。	60
10	運動器	運動器の構造と機能。 サルコペニア。ロコモティブシンドローム。廃用症候群の概要と予防。	運動器の主な疾患について予習・復習をしましょう。	60
11	バリアフリー法とは	高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）の成立の経緯と背景について解説する。	バリアフリー法について調べる。	60
12	バリアフリーとユニバーサルデザインについて	バリアフリーとユニバーサルデザインの共通点と相違点について解説し、本質的方向性について考察する。	ユニバーサルデザインについて調べる。	60
13	旧ハートビル法について	バリアフリー法制定により廃止された高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律（旧ハートビル法）について解説する。	ハートビル法について調べる。	60
14	高齢者と障害者の特性	高齢者、障害者の特性について整理し、双方に配慮した環境整備の促進について解説する。	高齢者の生活行動について調べる。	60
15	建築設計標準について	高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準について解説し、設計標準の不十分な点を考察する。	高齢者、障害者の生活に考慮した住宅例を調べる。	60

令和5年度

科目名	食物栄養学特別研究	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 4単位 選択
担当教員	大西　弘太郎		
開講期	通年		
授業概要	論文作成における仮説の設定，材料と方法の選定，検定，エビデンスの評価などについて学ぶ。 論文の構成，図表の作成，考察の方法などについて理解する。 英語学を初めとした語学力を培う。 担当教員；大西　弘太郎，岡部　聡子，西山　慶治。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに研究を行う。 実務経験：医師として医療機関に勤務している。 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけでなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。 位置づけ・水準： GU1120		
達成目標	単位認定の最低基準：(必ずしも独力でなくてもよいが)研究の発題、文献検索、研究計画の立案、材料と方法の確立、論文作成の一連の流れを習得することができること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：。		
受講資格	大学院博士課程1年	成績評価 方法	小テスト　(20%) レポート　(80%)
教科書	特になし。		
参考書	文献等を検索する。		
学生への要望	(可能な範囲で)英語論文の作成を行う。基礎となる英文医学用語の習得に努めること。		
オフィスタイム	臨床医学研究室 火曜日　13:00～17:00。 木曜日　13:00～14:30。 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	興味のあるテーマ、研究方法、研究報告などを挙げてみる。	興味を持っているテーマを列挙してみる。	60
2	論文収集①	興味を持っているテーマについての情報の収集を行う。文献の調査方法について学ぶ。	文献検索。	60
3	論文収集②	興味を持っているテーマについて文献検索を行う。その上で必須な論文，参考になる論文，違った見解が記載されている論文などに振り分ける。	文献検索。	60
4	文献閲読①	テーマにあった論文を選出する。論文は原著論文が望ましい。	文献閲読。	60
5	文献閲読②	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閲読。	60
6	文献閲読③	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閲読。	60
7	文献閲読④	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閲読。	60
8	文献閲読⑤	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閲読。	60
9	文献閲読⑥	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閲読。	60
10	文献閲読⑦	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閲読。	60
11	文献閲読⑧	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閲読。	60
12	研究テーマの決定	研究のテーマを決定する。	文献検索。	60
13	研究計画の立案①	研究計画を(主として材料と方法について)立案する。	文献閲読。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	研究計画の立案②	研究計画を(主として期待される結果と考察について)立案する。	文献閲読。	60
15	研究活動①	計画に基づき、研究を進める。	文献とデータのまとめ。	60
16	研究活動②	計画に基づき、研究を進める。	文献とデータのまとめ。	60
17	研究活動③	計画に基づき、研究を進める。	文献とデータのまとめ。	60
18	研究活動④	計画に基づき、研究を進める。	文献とデータのまとめ。	60
19	研究結果のまとめ①	結果を(主として図や表などに)まとめる。	文献整理。	60
20	研究結果のまとめ②	結果を(主として文章に)まとめる。	文献整理。	60
21	研究結果のまとめ③	結果を(主として引用文献などと絡めて)まとめる。	文献整理。	60
22	研究発表の準備①	研究発表に向けて、(主として図や表の)プレゼンテーションの準備を行う。	プレゼンテーションの準備。	60
23	研究発表の準備②	研究発表に向けて、(主として文章も含めたスライドの体裁などの)プレゼンテーションの準備を行う。	プレゼンテーションの準備。	60
24	研究発表の準備③	卒業研究発表会に向けて、(主として発表原稿の)プレゼンテーションの準備を行う。	プレゼンテーションの準備。	60
25	研究発表(口頭発表)	口頭発表の予行演習を行う。	口頭発表の準備。	60
26	研究論文作成①	研究内容を論文に(主として題目、要旨を中心に)まとめる。	論文をまとめる。	60
27	研究論文作成②	研究内容を論文に(主として図や表を中心に)まとめる。	論文をまとめる。	60
28	研究論文作成③	研究内容を論文に(主として本文を中心に)まとめる。	論文をまとめる。	60
29	研究論文作成④	研究内容を論文に(主として引用文献を中心に)まとめる。	論文をまとめる。	60
30	まとめ	論文作成，語学力の向上などについて、まとめを行う。	論文作成のまとめ、レポート作成。	60

令和5年度

科目名	食物栄養学特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択
担当教員	大西　弘太郎		
開講期	前期		
授業概要	ヒトの健康における特徴について学ぶ。 栄養と疾病の関わりについて理解する。 英語学を初めとした語学力を培う。 担当教員；大西　弘太郎，岡部　聡子，西山　慶治。 実務経歴：医療法人・南労会、社会医療法人・西陣健康会、医療法人・郡山病院などでの実務経験をもとに研究を行う。 実務経験：医師として医療機関に勤務している。 随時、小テストを行い、単なる答え合わせだけでなく、解説を行い、全員にフィードバックを行う。 位置づけ・水準： GU1120		
達成目標	単位認定の最低基準：(必ずしも独力でなくてもよいが)研究の発題、研究計画の理解、文献検索、論文要旨の把握とプレゼンテーションの一連の流れを習得することができること。 ディプロマ・ポリシーとの関係：。		
受講資格	大学院博士課程1年	成績評価 方法	小テスト　(20%) レポート　(80%)
教科書	特になし。		
参考書	文献等を検索する。		
学生への要望	英語論文の輪読を行う。基礎となる英文医学用語の習得に努めること。		
オフィスタイム	臨床医学研究室 火曜日　13:00～17:00。 木曜日　13:00～14:30。 金曜日　08:30～17:00。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション。	興味のあるテーマ、研究方法、研究報告などを挙げてみる。	興味を持っているテーマを列挙してみる。	60
2	論文収集①	興味を持っているテーマについての情報の収集を行う。文献の調査方法について学ぶ。	文献検索。	60
3	論文収集②	興味を持っているテーマについて文献検索を行う。その上で必須な論文，参考になる論文，違った見解が記載されている論文などに振り分ける。	文献検索。	60
4	文献閲読①	テーマにあった論文を選出する。論文は原著論文が望ましい。	文献閲読。	60
5	文献閲読②	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閲読。	60
6	文献閲読③	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閲読。	60
7	文献閲読④	論文を輪読する。出来れば総説から始めるのが望ましい。	文献閲読。	60
8	文献閲読⑤	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閲読。	60
9	文献閲読⑥	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閲読。	60
10	文献閲読⑦	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閲読。	60
11	文献閲読⑧	論文を輪読する。出来れば(letter, note, reportなどではなく)full paperが望ましい。	文献閲読。	60
12	論文閲読⑨	論文を輪読する。研究計画、研究方法などで独創的な論文が望ましい。	文献閲読。	60
13	文献閲読⑩	論文を輪読する。研究結果、研究討論などで独創的な論文が望ましい。	文献閲読。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
14	論文閲読⑪	論文を輪読する。写真，図表の表し方などで独創的な論文が望ましい。	文献閲読。	60
15	まとめ	論文の読み方，結果の解釈，討論の進め方，語学力の向上などについて、まとめを行う。	文献閲読のまとめ、レポート作成。	60

令和5年度

科目名	空間環境計画学特別研究	**対象** **単位数** **必選**	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 4単位 選択
担当教員	山形　敏明		
開講期	通年		
授業概要	空間環境計画学特論に連動させ、院生個々人の研究の新規性、学術性、家政学的効果に関する目標を明確にするため、俯瞰的視点から関連する応用対象分野の評論や最新の研究成果に基づく自己学習、教員からの講義、院生・教員の共同論考、小論文の整理体系化、さらには関連するシンポジウム等への参加など、効果的と考えられる多様な方法を広範囲に活用し、博士論文作成の発展的展開を図る。小論文は討議によるフィードバックを行います。		
達成目標	自立して研究を行うための専攻分野に関する最先端の知識と周辺領域に関する豊かな学識を十分に持ち合わせていること。また自らの研究の意義や新規性を明確化させていること。 単位認定最低基準：「授業内容の理解度が80％以上であり、独立して研究を進められる基礎を有していること」		
受講資格	博士（後期）課程	**成績評価** **方法**	プレゼンテーション20％、討論30％、レポート提出20％、小論文３０％で評価する。
教科書	特に使用しない。		
参考書	必要に応じて、文献や関連資料を指定する。		
学生への要望	問題解決にあたって、すでに身に付けている知識・技能を適用するだけではなく、研究の諸過程で出現した現象や結果に対する深い洞察力、考察力、応用力を自ら養成することを心がけること。		
オフィスタイム	月曜日Ⅳ限・Ⅴ限　第1住居学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス	講義の進め方、講義内容の説明を行い導入とする。	講義内容の復習	60
2	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	90
3	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
4	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理	60
5	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（教員からの講義）	論点整理と小論文作成	90
6	関連分野に関する整理	関連分野における研究開発・導入例の整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
7	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
8	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（教員からの講義・討議）	教員のコメントによる再整理	60
9	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
10	社会効用的意義の調査	研究内容の社会効用的意義の整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
11	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
12	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
13	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
14	学術的新規性の調査	研究内容の学術的新規性の整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
15	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
16	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
17	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
18	研究テーマの成果と既存の理論	研究テーマの成果と既存の理論・実験結果との照合及び考察（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
19	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
20	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（教員からの講義・討論）	討議結果による問題点の整理	60
21	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
22	研究テーマの論点、付加的価値	研究テーマの論点、付加的価値、適用範囲などの整理（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
23	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（教員からの講義）	講義内容の復習と次回の準備	60
24	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（教員からの講義・討議）	討議結果による問題点の整理	60
25	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（院生による自己学習の報告・討議）	論点整理と小論文作成	90
26	まとめ方の調査	学術論文のまとめ方（小論文提出・討議）	教員の指摘に基づく再整理	60
27	プレゼンテーション	プレゼンテーション方法の調査（教員からの講義）	講義内容の整理とプレゼンテーション準備	90
28	プレゼンテーション	プレゼンテーション（学生からのプレゼンテーションと教員との討議）	指摘に基づく再整理	60
29	プレゼンテーション	プレゼンテーション（学生からの２回目のプレゼンテーションと教員との討議）	総合評価を受けるための面談準備	60
30	総合評価	研究内容の総合評価（討議・教員よりの評価）	指摘に基づくまとめ	60

令和5年度

科目名	空間環境計画学特論	対象 単位数 必選	大学院 人間生活学研究科博士課程 1年 2単位 選択
担当教員	山形　敏明		
開講期	前期		
授業概要	自然（空間）環境学分野では、人間生活の衣食住や自然環境を対象として、人間の健康や社会背景について文献調査や実際の測定を通して、人間生活における問題点や課題を評価する。また、人間生活の安全安心を目指した改善方法も模索する。住（空間）環境分野においては、住空間、都市空間について計画学の観点及び環境工学の観点から講義する。住空間では、空間の構成原理、技術と住宅計画など計画分野の構成要素について扱う。都市空間については、都市の空間計画、都市インフラに関する基礎知識、都市防災、ユニバーサルデザインについて扱う。環境工学分野では、住空間の熱性能、温熱環境の計測、空気環境の測定法などを講義する。 授業の方法は、各専門分野の授業を数回ずつ各教員がオムニバス形式で行う。あらかじめ指定の資料を用意し、その内容について受講生が報告する形式で授業を進める。またレポートの提出を求めることもある。レポートは確認後その内容に基づき討論する。		
達成目標	単位認定最低基準：「各専門分野における科学技術について、基礎理論、解析手法、設計技術、応用システム他について現状と機能や役割を80％以上理解し、自らの研究において課題解決に当たる能力を有していること」		
受講資格	博士（後期）課程	成績評価 方法	討議50%、プレゼンテーション20%、レポート３０％で評価。
教科書	特に用いない。		
参考書	テーマ毎に担当教員から指定する。		
学生への要望	問題の解決にあたって、すでに身に付けた技能を適用するだけでなく、講義の諸過程で出る現象や結果に対する深い洞察力と考察力を自ら養成することを心がけること。各テーマの最終回には、講義内容に関するレポートの提出を求める。		
オフィスタイム	山形：月曜日Ⅴ限（山形）第1住居学研究室．阿部：月曜日Ⅰ・Ⅱ時限、木曜Ⅰ時限　生活科学研究室．伊藤：水曜Ⅳ・Ⅴ限、№１調理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	ガイダンス（山形）	講義の内容と進め方の説明	次回テーマの予習	60
2	住空間の構成原理（山形）	建築物及び都市空間における構成原理について解説する。	講義内容の復習	60
3	住宅計画の構成要素（山形）	住宅計画についての基本概念と空間構成について解説する。	講義内容の復習	60
4	都市空間の計画プロセスと構成要素（山形）	都市空間の計画プロセスと構成要素について確認する。		60
5	都市防災とインフラ（山形）	都市防災の現状とインフラ整備に関する相互作用について解説する。	講義内容の復習とレポート提出	60
6	社会と健康①（伊藤）	社会階層と健康への学際的アプローチについて解説と討議を行う。	社会と健康についての最新の情報を収集する。	60
7	社会と健康②（伊藤）	階層と健康について解説と討議を行う。	社会と健康についての最新の情報を収集する。	60
8	社会と健康③（伊藤）	健康格差のメカニズムについて解説と討議を行う。	社会と健康についての最新の情報を収集する。	60
9	社会と健康④（伊藤）	社会連帯の形成について解説と討議を行う。	社会と健康についての最新の情報を収集する。	60
10	社会と健康のまとめ（伊藤）	社会と健康についてレポートにまとめる。	社会と健康についての最新の情報を収集する。	60
11	環境と住空間（阿部）	住空間は自然環境の他、生活様式や社会的・文化的・歴史的背景によって異なる。そこで、多様な展開を見せるバナキュラーな住空間を「自然環境」「生活様式」「社会的背景」の３つの関係から考察する。	風土と住空間について多面的に捉え理解を深める。	60
12	住宅の熱取得と熱損失（阿部）	住空間の「快適性」や「省エネルギー」の観点から、住宅の熱性能を評価する指標について解説する。	住空間の断熱性と気密性を数値化し、熱性能について評価する。	60
13	温熱環境の評価指標（阿部）	温熱環境の6要素に基づき、代表的な温熱感覚指標である予測平均温冷感申告PMV、標準新有効温度SET＊を算出するプロセスについて解説する。	温熱環境を数値化した指標をもとに、環境評価を行う。	60
14	空気環境の測定法（阿部）	空気環境の測定法について解説する。また、室内空気中の汚染物質濃度を許容濃度以下にするための必要換気量を算定する。	空気環境の基準と空気質の測定法による評価法について理解する。	60
15	バリアフリーとユニバーサルデザイン（阿部）	さまざまなタイプのハンディキャッパーを想定し、物理的バリアのみならず多角的な視点からバリアを除去することを検討するとともに、ユニバーサルデザインについて考察する。	バリアフリー及びユニバーサルデザインの概念を基に、生活環境を評価する。	60